

## 世界作業療法士連盟の声明書 (2017年5月24日 吉川ひろみ訳)

原文は、<http://www.wfot.org/ResourceCentre.aspx> からダウンロード可能である。

声明書	頁
1. 作業療法の大学教育のための作業療法教育者の学術的資格 Academic Credentials for OT Educators 2008	3
2. 日常生活活動 Activities of Daily Living 2012	6
3. 作業療法におけるクライアント中心 Client-centredness in Occupational Therapy 2010	8
4. 地域に根差したリハビリテーション Community Based Rehabilitation 2004	9
5. 能力と能力維持 Competency and Maintaining Competency 2012	10
6. 作業療法の消費者インターフェース Consumer Interface with Occupational Therapy 2010	12
7. 多様性と文化 Diversity and Culture 2010	14
8. 環境維持, 作業療法における維持可能な実践 Environmental Sustainability Sustainable Practice within Occupational Therapy 2012	16
9. 倫理, 維持可能性, グローバル経験 Ethics, Sustainability and Global Experiences CM2016	18
10. 地球規模での健康: 作業療法実践の伝達 Global Health: Informing Occupational Therapy Practice 2014	20
11. 人の避難 Human Displacement revised 2014	22
12. 人権 Human Rights 2006	24
13. インクルーシブな作業療法教育 Inclusive Occupational Therapy Education 2008	25
14. 作業療法における国際協働研究 International Collaborative Research in Occupational Therapy revised 2012	27
15. 国際的プロフェッショナリズム International Professionalism 2014	29
16. 作業科学 Occupational Science 2005 revised 2012	31
17. 作業療法資格取得レベルの質の保証 Occupational Therapy Entry-Level Qualifications 2008	33
18. 専門職の自律性 Occupational Therapy - Professional Autonomy revised 2007	35
19. 災害準備と対応における作業療法 Occupational Therapy in Disaster Preparedness and Response (DP&R) 2014	36
20. 災害リスク軽減における作業療法 Occupational Therapy in Disaster Risk Reduction (DRR) CM2016	38
21. 終末期ケアにおける作業療法 Occupational Therapy in End of Life Care CM2016	40
22. 仕事関連実践における作業療法 Occupational Therapy in Work-related Practice CM2016	42
23. 青少年のための学校での実践における作業療法 Occupational Therapy Services in School-Based Practice for Children and Youth 2016	44
24. 専門職登録 Professional Registration 2010	47
25. 以前の教育についての認識 Recognition of Former Educational Status 2014	49
26. 国際社会からの作業療法士募集	50

	Recruiting Occupational therapists from International Communities - revised 2014	
27.	実践の視野と範囲 Scope and Extension of Practice 2014	53
28.	専門と上級の作業療法コンピテンシー Specialisation and Advanced Occupational Therapy Competencies 2014	55
29.	遠隔ヘルス Telehealth 2014	57
30.	ユニバーサルデザイン Universal Design 2012	60
31.	ソーシャルメディアの利用 Use of Social Media CM2016	61
32.	職業リハビリテーション Vocational Rehabilitation 2012	64
<b>参考</b>		
	作業療法に関する声明 Statement on Occupational Therapy April 2010	66
	作業療法の定義, 作業の定義	
	倫理綱領 Code of Ethics 2005	67

発行年別 声明書リスト

	頁		頁
<b>2016 年</b>		<b>2012 年</b>	
倫理, 維持可能性, グローバル経験	18	日常生活活動	6
災害リスク軽減における作業療法	38	能力と能力維持	12
終末期ケアにおける作業療法	40	環境維持, 作業療法における維持可能な 実践	16
仕事関連実践における作業療法	42	作業療法における国際協働研究	27
青少年のための学校での実践における 作業療法	44	作業科学	31
ソーシャルメディアの利用	61	ユニバーサルデザイン	60
<b>2014 年</b>		職業リハビリテーション	64
地球規模での健康: 作業療法実践の伝達	20	<b>2010 年</b>	
人の避難	22	作業療法におけるクライアント中心	8
国際的プロフェッショナリズム	19	作業療法の消費者インターフェース	12
災害準備と対応における作業療法	36	多様性と文化	14
以前の教育についての認識	49	専門職登録	47
国際社会からの作業療法士募集	50	<b>2008 年</b>	
実践の視野と範囲	53	作業療法の大学教育のための作業療法 教育者の学術的資格	3
専門と上級の作業療法コンピテンシー	55	インクルーシブな作業療法教育	25
遠隔ヘルス	57	作業療法資格取得レベルの質の保証	33
		<b>2007 年</b>	
		専門職の自律性	35
		<b>2006 年</b>	
		人権	24
		<b>2004 年</b>	
		地域に根差したリハビリテーション	9

## 作業療法の大学教育のための作業療法教育者の学術的資格

### Position Statement on Academic Credentials for Occupational Therapy Educators for University based Education in Occupational Therapy 2008

#### 1. 概要

現在の世界作業療法士連盟（WFOT）の作業療法士教育最低基準 2002 では、教育プログラムの作業療法教育者は学生が受ける学位より高いレベルでなければならないとしている。しかし、国の教育システムにおける作業療法のために強く効果的な主張をし、これを高めていくために、学部教育で資格を取れる教育システムにおける作業療法教育者は、他の学問領域と釣り合いのとれた高い学歴をもつべきである。

#### 2. ポジション

作業療法教育者は修士か博士の学位をもつ必要がある。

#### 3. 作業療法のポジションの重要性と論点

作業療法の学問は、大学院と博士レベルで資格を得た学術研究者の誕生と共にのみ発展するだろう。こうした信託や技能と能力は、健康や社会の安寧に作業療法専門職が貢献するという知識にあふれた力強い人や、21世紀以降の作業療法の発展においてリーダーの役割をとるであろう人を、きちんとした実践家やリーダーとして出現させることを可能にする。

#### 4. 社会にとってのポジションの重要性

21世紀には次のことが強調される。

- 1) 知識に基づいた社会の必要性
- 2) 健康や社会サービスの分配において、特別なアプローチが必要な人が増えるという統計学的要請
- 3) 学術、実践において高い質と能力をもつ人材を得るためのグローバルな競争 (Daxner, 2005)
- 4) 学習プロセスを促進する教育哲学の大規模な再概念化。ほめて育てる積極的学習のストラテジー計画 (Biggs, 2003, Shulman, 2000)
- 5) 大学存続におけるグローバル化の影響 (Bray, 2002)

最も重要なのは、作業療法の実践領域(活動と参加)に対する意識と要求の高まりである。これは WHO の国際生活機能分類 (ICF) に記載されている。

#### 5. ポジションの実質的論拠

WFOT は作業療法の質の高い教育の監督をすることを通して、健康専門職の国際的発展におけるリーダーである。作業療法教育最低基準の初版は 1958 年に出版され、この専門職の教育について、真に世界的見解として何を優秀とするかについての土台を提供した。改定版では、社会変化に対応した進展を反映し、より高い教育と研究における新たな発展を網羅する前向きな考えを示した。21世紀の知識とエビデンスに基づくという焦点は、批判的思考と創造性と革新に対して、より高い価値が与えられる (Creativity Centre Ltd, 2006, Elder & Paul, 2005)。作業療法資格取得レベルの教育経験は、ヘルスケア (健康と社会サービス) 市場において参加でき完遂でき、作業療法の進展の機会を捉えて先取りをしていく能力のある作業療法実践者となるよう、卒業生の準備を進めることである (Kneale, 2006)。

各国は作業療法について独自の見解をもっている。これはその土地固有の文化的知識に基づくものである。こうした知識を集め、解釈し、専門職の状況に移していくことができるような進んだ実績をもつ教育者なしでは、この重要な歴史的見解は失われるだろう。教育における学術性も期待される (Shulman, 2000)。さらに現在の高度な教育環境は、教員に自分たちの専門を超えた貢献をすることを求める。内

的（大学の委員会内）にも、外的（地域や政府の機関に対する代表）にも活動のより広い領域で、参加していくことが期待されている（Bryant 他, 1993）。こうした個人は、自分たちの主張を聞いてもらうために教育の「専門家」としての実績を積み重ねなければならない（Shulman, 1998）。

世界の多くの教育施設では、学生を惹きつける能力が、学術的にも財政的にも教育環境の活性化の維持における重要な要因である（OECD, 2001）。より高度な教育に向かうことは大きなビジネスである。専門分野における研究者、執筆者、思考家である教育者は、作業療法の発展と同様に、作業療法教育の成功にも重要である。現在と将来のヘルスケアと社会的環境で働くために、作業療法専門職を発展させ社会化させていくようにする複雑なカリキュラムを習得するために必要となる、質の高い学生を惹きつけるには、人道主義的価値観だけでは不十分である。他の多くの職業選択肢がある中で、質の高い優れた学生を惹きつけとどめておくために、素晴らしい実績のある学者や教育者が必要である。（修士や博士レベルでの）高いレベルの学習機会なしでは、教育者と実践家の多くは、自分が教えられたことを繰り返すことしかできず、作業療法を改定し、改善し、革新し、強化するための認知的道具をもたないことになる（Alex de Trocquville, 1884 as cited in AUCC, 1977）。

作業療法専門職の成長と発展は、健康や社会のシステムを継続的に変えていく中で、クライアントの常に変化し続けるニーズに合わせる作業療法士の能力にかかっている。作業療法士は革新家であり、変化を可能にする人でなければならない。これは作業療法士に、生涯学習、批判的分析、創造的思考の価値を認めることを求めることになる。優れたレベルに到達した作業療法教育者がその能力を示していくことが、こうした行動のモデルとなるだろう。

大学院の学位をもった作業療法教育者は、作業療法の世界的認識を促進し、作業療法の内外でリーダーシップを示す（Dickson & Hamilton, 2006）。知識に基づく社会で優れた実績を積むには、個人が多様な領域、つまり研究、学界、健康や社会政策の発展、個人的取り組み、政府内での地位で、生き残っていく道を見出していく必要がある（Shulman, 1998）。

## 6. チャレンジとストラテジー

すでに世界の多くの国では、教員には高い学位（学士から博士まで）をもつことが要求されている。WFOT のチャレンジは、機会が不足しニーズが大きな国や地域で、教育者としての実績を積む機会の創造を促進することである。

WFOT のストラテジーは、その国の協会と会員組織と一緒に、次の点に取り組むことである。

- 健康と社会サービスのための社会の複雑なニーズの増大に合わせるために、作業療法の教育の進展をサポートする環境を創造する。
- 作業療法教育者のための学術的資格の発展をサポートするストラテジーを定める。

## 7. 結論

作業療法教育者は大学院レベルの質を保つべきだという点について、相当な議論がある。教育者の学術的資格の進展を達成することは、ストラテジーの始まりであり、これには長い期間に渡る計画が必要となるであろう。

## 文献

- Biggs, J. (2003). *Teaching for Quality Learning at University: What the student does*. Society for Research into Higher Education. Blacklick OH: Open University Press
- Bray, M. (2002). *Financing Higher education in Asia: Patterns, trends and impacts of globalization*. Paper: First General Assembly of the Global University Network for Innovation: Asia and the Pacific (GUNI-AP): Retrieved September 16, 2004 from <http://www.adb/documents/report/>
- Bryant, J.H., Marsi, D.R., Khan, K.S., D'Souza, R., Husein, K., Aslam, A. & Qureshi, A. (1993). *A developing country's university oriented toward strengthening health systems: Challenges and*

- Results. *American Journal of Public Health*. 83 (11) 1537-1543.
- Creativity Centre Ltd. (2006). *Facilitating Creativity in Higher Education: The views of National Teaching Fellows*. UK: A research report.
- Daxer, M. (2005). *Trends in the Management of Human Resources in Higher Education*. Paper at Organization for Economic and Cooperative Development (OECD) Conference 25-26, August: *Competence Systems and Performance Management*. Paris.
- de Trocqueville, A (1977). *Democracy in America* as cited In Association of University Colleges of Canada. *Policy Document study 1: The role of the university with respect to enrolments and career opportunities, admission policies, continuing education and community colleges*. Ottawa:
- Dickson, G & Hamilton, D (2006). *Twenty-first Century Leadership Development at Royal Roads University*. *British Columbia Educational Leadership Research*. May 26 1-18.
- Elder, L. & Paul, R. (2005). *A miniature guide to critical thinking: concepts & tools*. Dillion Beach CA: the Foundation for Critical Thinking.
- Eryaman, M.Y. (2007). *From reflective practice to practical wisdom: Towards a post-foundational teacher education*. *International Journal of Progressive Education*, 3 (1).
- Kneale, P (2005). *Higher Education Academy Imaginative Curriculum Guide: Enterprise in the Higher Education Curriculum* (retrieved may 2006 from [http://www.heacademy.ac.uk/resources/detail/id393\\_enterprise\\_in\\_he\\_curriculum](http://www.heacademy.ac.uk/resources/detail/id393_enterprise_in_he_curriculum)
- Organization for Economic and Cooperative Development (2001). *Trade in Educational Services: What can we learn from existing data?* Paris.
- Shulman, S.L. (2000). *From Minsk To Pinsk: Why A Scholarship of Teaching And Learning?* *The Journal of Scholarship of Teaching and Learning* 1, (1) 48-53.
- Shulman, S.L. (1998). *Teaching and teacher education among the professions*. 38th Charles Hunt Memorial Lecture. American Association for Colleges of Teacher Education. Washington, EC: AACTE Publications.
- World Health Organization (2001) *International Classification of Function, Disability and Health (ICF)*. Geneva.

#### 声明書の目的の概説

本文書の目的は、日常生活活動（ADL）が作業療法の実践領域にどのように関連するかについて述べることである。

ADL は人間作業の中の一つの組み合わせである。作業は、家族の中で、集団やコミュニティの一員として、人が個人として日々行うすべてのことであり、人生に意味と目的をもたらす、健康を達成したり維持したりする。

#### WFOT のポジション

世界作業療法士連盟（WFOT）は、作業療法士が日常生活活動に関連する領域におけるエキスパートであること、作業療法士が特有の技能を使うときには、ホリスティックアプローチをとることを保証する。この場合には、異なる状況における多様なクライアントと共に行うことになり、ここには家庭、職場、余暇の状況が含まれ、日常生活活動へのクライアントの参加や結び付きを向上するという目的をもつ。

#### 作業療法にとってのポジションの重要性

この声明書は作業療法にとって重要である。それは、作業療法の基本的焦点が作業にあることを強調するからであり、作業には日常生活活動が含まれ（日常生活活動に限定されるものではないが）、作業療法士の専門性の現実的で重要な領域であると認識されている。

#### 社会にとってのポジションの重要性

この声明書では、作業療法の日常生活への焦点化が、個人、集団、コミュニティの健康を促進するという独自の貢献を強調する。

#### ポジションの実質的論拠

作業療法士は作業におけるエキスパートと考えられている。これを拡大して考えれば ADL のエキスパートである。なぜならば、

- 作業療法という職業は、健康のための作業参加と結び付きの促進に基本的関心がある。
- 作業療法士は、障害があろうがなかろうが、日常生活活動を含む生活の日々の作業に参加することを、個人ができるように、評価法や介入法を使うことについての特別な教育を受けている。
- クライアントのニーズ、ADL の複雑性、状況との関連性を重視する実践のためのクライアント中心でホリスティックなアプローチをとる。

#### チャレンジとストラテジー

多様な保健医療実践の場面や状況において、作業や ADL という用語について違った理解や使用がされていることがチャレンジを生んでいる。ADL は何らかの目的によって分類される。たとえば、セルフケア、生産活動、レジャーといったように。セルフケア活動として ADL を説明する人もいる。「自分自身の体のケアをするといった活動 1」などというように。また、手段的日常生活活動（IADL）は、「環境と関わるような活動で、本質的に複雑であることが多い 1」と説明する人もいる。

このチャレンジに対応するために、作業療法士にとって重要なことは、

- 話し言葉でも書き言葉でも作業に焦点を当てた用語を使う。
- 作業への焦点化という独自性を促進するためのすべての機会を活用し、なぜ ADL 技能が適切とされるのかを説明する。
- クライアント中心を忘れず、クライアントのニーズや目標によって決定された ADL 技能に関わる。

## 結論

ADL のエキスパートとして、作業療法士は、クライアントが自分の作業を遂行し、結び付くことが可能になるようにするという重要な役割を担うことができる。その作業とは、意味があるもので参加を促進するものである。作業療法がクライアントの ADL 遂行と結び付きの可能化に関わる度合いは、実践の状況とクライアントのニーズによって決まる。

この文書は、2012 年 3 月台湾で開催された WFOT 代表者会議で承認された。

## 文献

James, A.B. (2009). Activities of daily living and instrumental activities of daily living. In E.Crepeau, E.Cohn & Boyt Schell, Willard & Spackman's Occupational Therapy 11th ed. (pp.538-578). Baltimore MD: Lippincott, Williams & Wilkins.

## 序文

作業療法は作業を通して健康（health and well being）を促進することに関心をもつ専門職である。作業とは人々が日常生活で行うことである。作業療法の基本目標は、作業に人々が参加することである。人々の参加は、その人の個人の能力によって、作業をするのに何が必要かという作業の性質によって、また物理的、社会的、制度的環境や人々の態度によって、促進されたり制限されたりすると、作業療法士は信じている。それゆえ、作業療法実践は、人や作業や環境の側面を変えて、一人ひとりができるようになるということに焦点を当てる。

人道主義的哲学が、作業療法実践の基盤となっている。このことが意味するのは、作業療法士がすべてのクライアントと人間関係をもつ上で、人を中心におくということである。作業療法のクライアントには、個人、家族、集団、コミュニティ、組織、住民全般が含まれる。

作業療法実践を導く基本的前提は、人間と健康に対する作業的視点である。この前提には次のことが含まれる（Polatajko 他, 2007, Wilcock, 2006）。

- 人は作業に結び付くという生来のニードと能力をもつ、
- 作業は健康に影響を与える、
- 作業は時間を組織化し、生活を構造化する、
- 作業は個人的に意味深いものであり、また状況的意味をもつ、
- 作業と結び付くことは独特なものであり、状況に関連する、
- 作業は治療的潜在力をもつ。

## この文書のポジション

作業療法とはクライアント中心であり、作業に焦点を当てたものである。作業療法の目的は、個人的にしたいと思う作業、する必要がある作業、社会的に文化的にすることを期待されている作業に参加することを、クライアントができるようになることである。作業療法において、作業療法士は、クライアントを尊重してパートナーとなり、人々の主観的な参加の経験に価値をおき、人々の知識、希望、夢、自律性に敬意を表す。

## 文献

1. Polatajko, H, Davis, J., Stewart, D., Cartin, N., Amoroso, B., Purdie, L. & Zimmerman, D. (2007). Specifying the domain of concern. In E. Townsend & H. Polataajko (Eds), *Enabling Occupation II: Advancing an Occupational Therapy vision for Health, Well-being & Justice Through Occupation* (pp. 13-36). Ottawa: Canadian Association of Occupational Therapists. (吉川ひろみ訳. 関心領域の特定. 吉川ひろみ, 吉野英子監訳, 続・作業療法の視点 作業を通しての健康と公正. pp.34-60, 大学教育出版, 2011).
2. Wilcock, A. (2006). *An Occupational Perspective of Health*. (2nd ed.) Thorofare: Slack.



## 見解

WFOTは、地域に根差した実践（Community-based rehabilitation: CBR）とは実際何か、どうあるべきか、について幅広い意見や哲学があることを認める。CBRは、非常に多様な障害に関連する実践を含む。この文書は、障害者のリハビリテーション、機会の平等、社会統合のための地域開発の戦略として CBR を理解することを基本とする。CBRは、障害者自身、家族、地域の積極的参加と共に、地域のさまざまな関係者の努力とが一体となって実践される。CBRは、利用者と提供者双方にとって、適切な健康、教育、社会的、職業的などのサービスへのアクセスと参加の両方を促進する。

WFOTは、世界中に6億人の障害者がいること、特に「開発途上国」に多いこと（ここに限定されているわけではないが）を重視している。「開発途上国」の家族や地域は、日常生活において尊厳ある意味ある参加をすることが制限されていたり、それができなかつたりしている。作業療法士は、こうした現実に対して批判的に気づき理解を深めている。この現実には、作業隔離、作業剥奪、作業的公正といった新たな問題に目を向けさせ、情報を与えるものである。作業療法士は、特定の中核となる原則を発展させることに努めている。一つはすべての人の権利であり、障害者も含み、作業を通して自分自身の運命を決める各人の能力と力を発達させるという権利である。これは CBR の基本的主張と一致する。

作業療法士は、CBR においてトレーナーや教育者として仕事をしてきている。プログラムを促進し、発展させる目的をもって、地域の人々に知識や技能を移転するということをしてきた。その他に地域での「ハンズオン」としても仕事をし、処方の下でサービスを提供したり、プログラムリーダーとしてのポジションで働いたりしてきた。現在の CBR において国外者と地域の実践者が何人いるのかについて、数の統計はない。

## WFOT のポジション

WFOTは、作業療法士が CBR を通して、障害者や家族の生活に変化を起こすという貢献をしていると認めている。WFOTは CBR プログラムと障害者の人権の発展と普及をサポートし促進する。WFOTは、CBR における統合的な作業療法実践—研究—教育プロジェクトを計画し実行することをサポートする。

このポジションは、障害を経験する人や家族や地域との連合体に結び付くことであり、彼らの問題のために彼らと共に主張し、個々人の経験を共有するものであり、専門職協会が障害者のニーズと、尊厳とインクルージョンの権利をサポートすることをできるようにする。これは開発途上国であっても、先進国であっても行っていく。

#### 声明書の目的の概説

世界作業療法士連盟（WFOT）は、作業療法士が有能な方法で実践するために必要な事柄があると認識している。有能な実践とは、実践家が現在の地域の実践に沿った論理的な方法で実践しなければならないことを指す。WFOT が推奨するのは、実践しているすべての作業療法士が、自分の実践をこの声明書の内容に沿ったものとするところである。

個々の作業療法士が「害を与えない」ことを確実にするために、WFOT は、作業療法士が生涯学習のプロセスを通して、自分の知識、技能、遂行を維持する必要があると提案する。

有能な作業療法実践は、私たちの内的、および外的関係者に対して、作業療法という専門職の透明性を促進する。

#### WFOT のポジション

WFOT は、すべての作業療法士のために、専門職としての仕事のすべての側面で有能な実践をすることを必須とするよう推進する。

WFOT は、有能さが作業療法の実践者、教育者、WFOT メンバーである協会、社会との協働を通して定義されると提案する。

WFOT は、WFOT メンバーである協会が自分たちの地域の状況において推奨される能力を定義し、その能力が実行され、経過観察される仕組みを設立することを奨励する。

#### 作業療法にとってのポジションの重要性について

WFOT のすべての会員国は、WFOT 作業療法士教育最低基準（2002）<sup>1)</sup>に合致しなければならない。この基準は、作業療法を実践するための必須能力の基盤である。さらに、すべての会員国は、その国で実践するための能力を評価するために作成された枠組みをもつことも期待される。WFOT はまた、WHO により定義された核、マネジメント、リーダーシップ<sup>2)</sup>を保証することも行う。

この声明書は作業療法実践における優秀さ標準を開発し促進するための WFOT 優先事項<sup>3)</sup>とも関連する。

WFOT の倫理綱領<sup>4)</sup>は、作業療法士が、生涯学習と、最良な入手可能なエビデンスに基づいて自らの専門職の仕事を行う知識と技能を使うことを通して、専門職としての発達に参加する責任があると述べている。この原則は、測定可能な安全な成果を確実にしていく有能な実践を促進する。

#### 社会にとってのポジションの重要性について

WFOT は、実践のための能力が、すべての人のための質の高いサービス提供における専門職の貢献につながると考えている。作業療法士からサービスを受ける一人ひとりが、作業療法実践における優秀さの標準となるサービスを受ける権利がある。この声明書の原則に沿うことは、安全で有能な実践をする必要があると、作業療法士と作業療法学生が意識化することを確実にする。

この WFOT 声明書は、「作業療法士のための資格取得レベルの能力」（2008）<sup>5)</sup>、WHO の効果的な専門職の行動を定義した「世界的能力モデル」<sup>6)</sup>、「作業療法における学位プログラムの設計と供給のための TUNING Europe Reference Points」<sup>7)</sup>と一貫するものである。

#### 結論

この WFOT の声明書は、会員である作業療法協会が、自分たちの地域状況の中で推奨される能力を定義し、個々の作業療法士が有能な実践をするよう推奨する。

WFOT は、作業療法士が環境変化や臨床実践や研究において、新たに必要とされる事項に有能に対応することを推奨する。これは、作業療法実践者が、すべての社会において作業療法サービスを利用でき

るすべての人のために、質の高いサービスを提供することを確実にするだろう。

文献

- 1) WFOT (2002). Minimum Standards for the Education of Occupational Therapists. WFOT. [www.wfot.org](http://www.wfot.org)
- 2) World Health Organization (WHO). Global Competency Model.
- 3) WFOT (2007). Strategic Plan 2007-2012. WFOT.
- 4) WFOT: Code of Ethics (revised 2005). WFOT.
- 5) Burnett, T., et al, (2008): Entry Level competencies for Occupational Therapists. WFOT.
- 6) World Health Organization (WHO). Global Competency Model.
- 7) COTEC and ENOTHE (2008)

#### この文書の目的

世界作業療法士連盟(WFOT)は、世界中の作業療法専門職の哲学的、理論的枠組みを認め、人々が健康的な生活に積極的に結び付き参加することができるようにする健康促進分野としての力があることに同意する。作業療法サービスは、クライアントの表明されたニーズに沿って協働的パートナーシップの下で行われることをプロセスの中心とする。たとえば作業療法サービスの消費者などである。

本文書は、作業療法のクライアント、家族、介護者、コミュニティの機関が、自分たちが決めたニーズを協働して主張していくために、こうした人たちの声を聞くために行う先を見越したアプローチを示すものである。

#### とるべきポジションについての声明

WFOTは、作業への参加を改善するニーズがあったり、作業への参加に関心のある個人や集団と作業療法士が積極的に協働することに賛同し、これを奨励する。WFOTのポジションは次のことを認識し、サポートする。

- 個人、家族、コミュニティのレベルで発展するであろう効果的なパートナーシップを可能にするストラテジー
- 将来の作業療法の方向や理想に影響を与えるようなアドバイサリーグループ(顧問団)の重要な代表としての消費者にすべての人たちを包み込むこと
- 作業療法実践のさまざまな場面、集団、文化と、こうした状況での作業療法実践の特有性
- すべての作業療法の状況で消費者の参加を推進するような、共有できる統合された枠組みをもつ作業療法の確立

#### 作業療法にとってのポジションの重要性と作業療法の論点についての声明

作業療法士と消費者の積極的な協働は、作業療法の哲学と実践を統合することである。これは、消費者とのパートナーシップを作るというWFOTの方向性に沿ったものである。これは、障害者のための機会平等についての国際連合の基準(1993) iにより義務とされたことでもある。さらに世界保健機関(WHO, 1948) iiは、健康とは疾病がないというだけでなく、人々が満足のいく生産的な生活に参加できるということを含むと認めた。

#### 社会やクライアントにとってのポジションの重要性についての声明

より広い社会において、生活の質を改善するために主張する上で作業療法士が消費者と積極的に対等に結び付いていくことは、次のことを明確にするために必須である。

- 文化的意識向上と感受性
- 作業療法士と作業療法学生間での専門職としての意識向上
- 作業療法専門職に対する世間一般の意識向上とアクセス
- 健康、教育、福祉といった関連問題について、消費者のポジションのために交渉をしていくための政治意識の向上

#### ポジションの実質的根拠

WFOT消費者関連プロジェクト2008は、「作業療法の消費者:障害者の声」という文書を示し、このポジションの背後にある根拠を完全に説明している。

## 結論

WFOT の声明書は、「消費者の表明されたニーズに対応する作業療法士」 iii を推進するために、次のストラテジーと行動を推奨する。

1. 意味のある作業に結び付くことによって、クライアントの生活の質の改善という成果を出す専門職という目的に関連する作業療法サービスについての政府、雇用主、財源提供者への教育
2. インクルージョン、健康教育へのアクセス、雇用、配慮、テクノロジー、物理的環境やその他問題となる事柄へのアクセスに関連するクライアントの問題を聞き、主張することを通して、生活の質の成果を改善するための、作業療法士と作業療法学生の教育
3. 作業療法サービス強化を強調するような、パートナーシップと協働を発展させるための、クライアントや消費者組織、あるいはクライアントの権利擁護組織との関係

## 文献

- i The United nations Secretariat for the Convention on the Rights of Persons with Disabilities (1993), The Standard Rules on the Equalization of Opportunities for Persons with Disabilities, United Nations, resolution 48/96, 20 December 1993. <http://www.un.org/documents/ga/res/48/a48r096.htm>
- ii World Health Organisation (1948), Definition of Health, World Health Organisation. <http://www.who>
- iii Passmore, A. et al (2008): Consumer Interface with Occupational Therapy: Voices of People with Disabilities, WFOT Bulletin, Vol.58, November, 33-47. <http://www.wfot.org>

#### 本文書の目的の表明

世界作業療法士連盟（WFOT）は、作業療法士が文化と多様性に気づき焦点を当てることが増えていると認識している。これは、サービス提供が人中心アプローチであり、すべての人が参加のための平等な機会から利益を得るインクルーシブな社会を必要としていることと関連している。

本文書は、WFOTの「多様性と文化のガイドライン」（2009）<sup>1</sup>から生まれたもので、国際連合（UN）の「世界人権宣言」と軸を同じくしている。

「すべて人は、人種、皮膚の色、性、言語、宗教、政治上その他の意見、国民的若しくは社会的出身、財産、門地その他の地位又はこれに類するいかなる事由による差別をも受けることなく、この宣言に掲げるすべての権利と自由とを享有することができる。」（第2条, 1948）<sup>2</sup>

#### とるべきポジションの声明

WFOTは、自分自身と人々の信念、価値観、行い、存在の仕方に沿った実践をするという、すべての作業療法士のニーズを奨励する。（Hocking and Emery, 2002）<sup>3</sup>

#### 作業療法にとってのポジションの重要性と作業療法の論点についての声明

作業療法は、すべての人が自分の作業遂行と社会への参加の際に、文化、社会、心理、生物、経済、政治、スピリチュアルという側面が、流動的に作用し合うものをまとめていくやり方において、唯一無二であることを認めている。

WFOTの倫理綱領<sup>4</sup>では、作業療法士はサービス提供する人の文化的多様性、ライフスタイル、捉え方を考慮する責任があると述べている。

WFOTは、多様性と文化に関連する4原則を支持する。

1. 多様性の問題：研究エビデンス
2. 人権とインクルージョンの問題：作業、参加、文化的意識、感受性
3. 言語の問題：言葉の力
4. 能力の問題：態度、知識、技能

#### 社会とクライアントにとってのポジションの重要性についての声明

作業療法は、すべての人が自分の作業遂行と社会への参加の際に、文化、社会、心理、生物、経済、政治、スピリチュアルという側面が、流動的に作用し合うものをまとめていくやり方において、唯一無二であることを認めている。

次の方法で、本文書の原則が遵守される

- 人々の状況的多様性についての作業療法士と作業療法学生の気づき
- インクルーシブで文化的に安全な作業療法実践

#### 結論

WFOT 声明書は、作業療法士と作業療法学生による「多様性と文化のガイドライン」（2009）の遵守を奨励するための方法と行動として次のことを提案する。

1. 多様性と文化を認識する。
2. 各個人それぞれの文化を尊重する。
3. 自分たちの実践を超えたものに対して、有能に対応する。
4. 教育、実践、研究において、作業療法の知識、技能、態度の中にこれらの原則を組み入れる。

文献

- 1 Kinébanian, A., Stomph, M. (2009): Guiding Principles on Diversity and Culture. WFOT. [www.wfot.org](http://www.wfot.org)
- 2 United nations (1948): The Universal Declaration of Human Rights (Article 2). [www.un.org](http://www.un.org)
- 3 Hocing, C., Emery, I. (2002): NZAOT Presentation to the WFOT 50th Anniversary Celebration (Stockholm), New Zealand Association of Occupational Therapists (NZAOT), unpublished.
- 4 WFOT: Code of Ethics (revised 2005). [www.wfot.org](http://www.wfot.org)

環境維持, 作業療法における維持可能な実践 Position Statement on Environmental Sustainability Sustainable Practice within Occupational Therapy 2012
---

#### 本文書の目的についての声明

この文書は、世界作業療法士連盟（WFOT）の環境維持のポジションを示す。作業療法士が、作業と作業遂行を中心に据えた中核的役割を担い、専門職における環境維持に向かってクライアントや地域と協働して働くことは、極めて重要である。

作業療法士にとってのチャレンジは、環境的に維持可能なよい状態を促進しながら、人間発達を可能にすること<sup>1</sup>、個人のよい状態を可能にすることである。これは、地球規模の問題に作業療法実践が取り組む新たな機会を提供する。

#### とるべきポジションについての声明

地球の気候変化の影響<sup>2</sup>は、人間のよい状態にとって大きなチャレンジとなっている<sup>3</sup>。WFOTは、気候変化、地球の健康、維持可能な発展の間の相互関連性を認める。経済、社会、環境の議論すべき議題として、未来世代の人々のニーズを充足する能力を犠牲にすることなく、世界の人々の現代的日々のニーズを充足することを取り上げていかなければならない<sup>4</sup>。

WFOTは、人間により起こっている地球環境の変化、限りある自然資源の過剰使用、生物多様性の減少、人口増加、不平等な富の配分といった人口統計学的傾向が、環境維持を危機にさらしていると認識している。WFOTは、作業療法士や作業療法学生に対して、こうした大きな地球の問題の解決に参加するために、作業や作業遂行の専門技能や知識を使うことを奨励する。

WFOTは、環境維持が人間のよい状態のすべての側面をサポートするという見方<sup>5</sup>に賛同する。よい状態のすべての側面とは、基本的な物質的満足、選択と行動の自由、健康、安全、よい社会的人間関係である。

WFOTは、次のような地球の健康の価値について行動するという地球的視点<sup>7</sup>を採用することをサポートする<sup>6</sup>。

- 相互依存性：すべての人は平等に価値があり相互に関連し合っている。お互いに学び合うことができ、相互に尊重し合い、相互に利益を得ながら交流し合うことができる。
- 自立性：人は自分のアイデンティティに基づいて、自分が価値を認める生活を送ることができる。
- 権利：健康は人間の権利であり、公正（justice）、透明性、責任（accountability）の概念が組み込まれている。

#### 作業療法にとっての論点の重要性についての声明

WFOTは作業療法士に、継続可能なやり方で、すべての人々が個人的な作業目的を達成していく社会を創造するために、個人や地域と一緒に取り組むことを求める。

作業療法士は、維持可能な実践を含む作業遂行について、実践モデルを再評価したり、クリニカルリレーズを拡大することを奨励される。

WFOT災害準備と対応（Disaster Preparedness and Response）プロジェクトは、環境ニーズへの適応について、自分たちの実践を焦点化するような気候変化の重大なネガティブな影響を経験している国々の作業療法士をサポートする。同様に、WFOTは、環境的に維持可能な作業遂行やライフスタイルを促進するような維持可能な生活を、より一層していくことを望むクライアントと共に作業療法士が取り組んでいくことを奨励する<sup>8</sup>。



## 社会にとってのポジションの重要性についての声明

維持可能性の見方を組み込んでいくことは、環境的に維持可能なビジョンに向かい、公平で健康的な社会に向かって、作業療法が重要な役割を担うことを可能にするだろう。

## 作業療法にとってのチャレンジとストラテジー

- 教育は、環境文化の変化を創造する最強の手段の一つとされている<sup>9</sup>。新しい教材が開発されることが提案されている。
- 維持可能な作業遂行や作業療法実践に関連する基礎となるエビデンスが出現するよう発展していくために、研究が必要である。新しい研究のパートナーが、異なる分野や会員国間で必要となる。
- 各国の協会は、環境的に維持可能な最良の実践の原則をサポートすることができる。それは、自分たちの国の環境、社会、経済的状况に依存する。各国の協会は、環境的に維持可能な最良の実践の例を共有するよう奨励される。

## 結論

この声明書は、現在の地球規模のチャレンジが、環境的に維持可能な実践に作業療法士がしっかり取り組んでいく理由をどのように提供するかを説明する。

この文書は、2012年3月、台湾でのWFOT会議で承認された。

## 文献

1. Nussbaum, M.C. (2003) 'Capabilities as fundamental entitlements: Sen and social justice', *Feminist Economics*, 9(2/3), p.33-59.
2. Intergovernmental Panel on Climate Change. (2007) *Climate change 2007: The physical science bases: Summary for policy makers*. Geneva: IPCC Secretariat.
3. UCL Lancet Commission. (2009) 'Managing the health effects of climate change', *The Lancet*, 373(9676), p.1693-1733.
4. World Commission on Environment and Development. (1987) *Our Common Future: Brundtland Report*. Oxford: Oxford University Press.
5. Millennium Ecosystem Assessment. (2005) *Ecosystems and Human Well-Being: Current State and Trends: Findings of the Condition and Trends Working Group*. Hassan R, Scholes R and Ash N (Eds). London: Island Press.
6. World Federation of Occupational Therapists (WFOT). (2006) *Position statement on human rights*.
7. Crisp, N. (2010) *Turning the world upside down: The search for global health in the 21st century*. London: Royal Society of Medicine Press.
8. Dieterle, C. (2009) *Green Lifestyle Redesign®: A wellness program for environmental sustainability*. Poster session presented at the 89th Annual Conference of the American Occupational Therapy Association, Houston, Texas, 23-26 April 2009.
9. Orr, D. (2009) *Down to the wire: Confronting climate collapse*. Oxford: Oxford University Press.

### 文書の目的についての概要

世界作業療法士連盟 (WFOT) は, 国際的トレーニングや仕事経験の世界が複雑であることを認める。これは, 多くの健康関連専門職や作業療法を含む専門教育プログラムにおいて, 主要な関心事となりつつある。このことから, 国際的仕事やトレーニング経験の倫理や維持可能性にまつわる問題や関心事が浮上している。作業療法士は, 協働的にコミュニティと一緒に取り組んでいく必要があり, こうしたニーズを充足することを熱望しているが, その国にある介入の既存のインフラや維持可能性についても考慮しながら行うことになる<sup>1</sup>。この文書の目的は, 作業療法という専門職や WFOT の現在の価値と信念を保持しながら, こうした問題を明確にすることである。受入れ側と訪問するパートナーとの双方向的パートナーシップを形成し構築することは, こうした運動を推進する上で不可欠である。

### とるべきポジション

倫理的な国際的仕事トレーニング経験を構成するものは何か, 作業療法専門職の哲学, 使命, 基本的価値観にどのように合致するかを明確に示すことは, WFOT の責任である。作業療法士は, 維持可能性, 尊重, 文化的感受性といった概念を考慮する必要がある。こうした考えは, 国際的パートナーその後の関係を育てる努力において達成すべき次の目標を可能にするだろう。

1. 植民地主義やパターナリズムの痕跡を減らし, その代わりに双方向的パートナーシップを育てる
2. 利己的なアプローチを示すような目的や目標を排除する
3. 受入れ側によって定められたプロジェクト目標が達成したり, サービスを継続する場においてプログラムがあるなら, 担当者が撤退することを確実にする

### このポジションの重要性と作業療法にとっての問題

国際的仕事とトレーニング経験は, 作業療法実践の重要な側であり<sup>2</sup>, 作業療法専門職の基本概念を示すものである。さらに, こうした経験は作業療法専門職の基本教訓であるクライアント中心の実践と合致するものである。コミュニティの許容力を確立し, 作業療法の中心となる価値を構成するものである目的と意味をもつ個人の人生を生きるという本来の注意点を, サポートし強化すべきである。

### 適切な社会におけるポジションの重要性

ケアの原則の倫理に従い<sup>3</sup>, 相互の努力と利益に基づいた相互依存的関係の維持に, 焦点を当てるべきである。短期間コミュニティに実際に出向くことが重要であるが, これは継続的で発展的な協働の関係が維持されることを確実にする上で重要なのである<sup>1</sup>。主義や価値が真実となれば, こうした努力は広がるその社会やコミュニティは, 豊かになり, 維持可能な未来を構築するだろう。

### このポジションの基盤となる証拠

個人の経験よりも倫理や維持可能性に焦点を当ててグローバルパートナーシップを確立することは, コミュニティをエンパワーし, 真の双方向性を実現させるだろう<sup>2</sup>。この文書に記されている原則を守ることは, グローバルな国際的仕事とトレーニング経験が作業療法専門職の基本的標準になることを確実にする。一貫性があり, 維持可能な状態で, 全体としてコミュニティや社会の豊かさが保たれることが可能となる。こうした原則は, よりたくましい倫理的枠組みと最終的にパートナー双方の利益に根ざした, グローバルな作業療法実践を可能にする。

### チャレンジとストラテジー

国際的仕事トレーニング経験のためには, 多くの段階があり, 限定的で矛盾する定義に苦しめられる。

サービス学習，ボランティア精神，国際的フィールドワーク，文化的浸潤などの用語がそれにあたる。グローバルな経験を獲得し理解を進めるためのこうした段階すべてに共通する要素はあるが，慎重な考慮が必要な事柄を共有することもある。この教育分野は，援助やサービスの提供を使命として主張しながら，植民地主義の解釈に近づいていく。

さらなるチャレンジは，提供する側からだけの視点で，良い行いをするという個人的信念を克服することを含む。コミュニティの中で探っていくというよりも，与えるというモデルでグローバルな仕事を考える傾向がある。パートナー間の力関係が流動的であるという複雑さがあり，これがしばしば，パートナーシップに，依存する関係をもつように，受入れ側を弱くしてしまう。相互尊重，協働的パートナーシップ，双方向的関係という実践モデルを，より一層準備する方向へと変化することが必要である。倫理的配慮，維持可能性，コミュニティに根付いていくことに関する教育は，作業療法士の責任である。

## 結論

WFOT は，会員国と作業療法士が，協働的で平等な機会を提供し，維持可能性を保つという関係を打ち立てるために取り組むという基本があると信じている。これは，作業療法士がコミュニティとの関わりを強化し，問題を明確にするための協働を可能にする双方向的関係を創造するネットワークの発展を可能にする。

## 文献

1. Suchdev, P., Ahrens, K., Click, E., Macklin, L., Evangelista, D., & Graham, E. (2007) A model for sustainable short-term international medical trips. *Ambulatory Pediatrics* 7(4), 317-320.
2. Powell, D. L., Gillis, C. L., Hewitt, H. H., & Flint, E. P. (2010). Application of a partnership model for transformative and sustainable international development. *Public Health Nursing* 27 (1), 54-70.
3. The Ethics of International Engagement & Service Learning Project (2011). Ethic of care, retrieved from [http://ethicsofisl.ubc.ca/?page\\_id=170](http://ethicsofisl.ubc.ca/?page_id=170)

#### 文書の目的についての概要

この文書は、地球規模の健康について世界作業療法士連盟 (WFOT) のポジションを示すものであり、この概念の適用と作業療法専門職の関連事項を探索するものである。

#### とりうるポジションについての声明

地球規模での健康は、学問、研究、実践の一分野であり、世界中の全ての人々の健康を改善したり平等性を達成することを優先事項とする。地球規模での健康が強調するのは、国家を超えた健康問題、決定要因、解決策であり、健康科学とそれ以外の多くの学問分野が関わり、学際的協働を推進するもので、個人レベルの臨床的ケアと共に、全住民の予防を統合して行うものである (The Lancet, Vol. 373, 2009年6月)。

作業療法士は、作業療法を通じて、そして他の組織や人々と一緒に協働して、意味のある作業を基盤とした独自の技能を使って、こうした問題を強調しながら行動しなければならない。

作業療法は、社会や個人の地球規模での健康に貢献する。それば意味があり目的がある作業に結びつく権利を行使できるようにすることによってなされるのであり、医学的診断、社会的スティグマや偏見に関わりなく行われる。地球規模の健康という概念は、作業療法の実践、教育、研究の中核である。

#### 作業療法にとってのポジションや問題の重要性についての声明

地球規模の健康は、作業療法士が関与する多くの関連事項を含む。これには、感染する可能性がない疾患、感染症、外傷による人生の変化に付随するリハビリテーションニーズ、慢性状態、精神的健康、高齢期の寿命延伸が含まれる。

#### 適切とされる社会にとってのポジションの重要性についての声明

地球規模の健康が、歴史上の時代を定義することも知られている問題である (Foege 他, 2005)。貧困、スティグマ、偏見、過激論者の体制すべてが、世界中に根ざしている虐げられた経験に寄与している。私たちの社会の現在の要求やニーズに直面し、長い時間をかけて優先するニーズを強調する維持可能なパートナーシップを作り上げることが重要である。

#### このポジションの実質的論拠

5つのタイプのパートナーシップが特定されており (Foege 他, 2005)、それは地球規模の健康問題を強調する世界の能力における中心的価値観であるとみられている。そのパートナーシップとは、①WHOが他の世界組織を発達させている、②公的及び私的な寄付双方により、関与している機関が世界レベルから地方レベルまでである、③WHOが国家および地方の健康についての権限をもっている、④自分たち自身の健康と福祉を強調し直面する個人や地方のグループが関わっている、⑤非政府組織や地域の組織が共に取り組んでおり、技術者、教育者、市民、政策立案者が表れ、優れた技能を持って、こうしたチャレンジに立ち向かう準備をして豊かな地域を作ろうとしている。この最後の5番目のカテゴリーに、作業療法はうまく合致しており、地方組織と関わり、特定の党派に属することなく、WFOTの地球規模でのリーダーシップを発揮することを通してこれを行う。

#### チャレンジとストラテジー

直面するチャレンジは、組織の集合体としての視野から見るときに見える。同様に重要な複数の個人が抱えるチャレンジには次のことが含まれる。他の国で使われている適応技術を違う地方の状況に適

応させる。そうすれば多くの地方でリハビリテーションのためのトップダウンアプローチを克服することになる。この分野で強調する戦略には、対話と研究を含む。関わるための戦略は、地方レベルから世界レベルへとすべての作業療法士を導きうる。

パートナーシップの構築：WFOTは、目的と成果の発展が向上し達成に向かうのは、会員国が他の作業療法集団やその他の分野や国際的組織と共にパートナーシップを結ぶときだと信じている。これが作業療法がもっとも価値をおくことが関連する優先事項に焦点を当てていくようなネットワークを実現することとなるだろう。

主張する者としての私たちの役割において、サービスが限られているような分野における健康サービスに自由にアクセスできる革新的モデルを実現するための境界線押しやることが出来る。その場合には、清潔な水、安全な住居、教育、意味のあるコミュニティ参加を確実にするために、他のNGOや地方の地域の能力を高める人々と共に取り組んでいく。作業療法がより確立し、国際的コミュニティにおいて認識され価値あるものとなるとき、戦争後の被災状況や社会の動乱や革命に対処する地域との関わりにおいて、世界を変化させるイニシアティブをとる上で真のパートナーとなりうる。

普及：多くの作業療法士が地球規模の健康のチャレンジの複雑さに気づいていない。そのため、地球規模の健康ニーズや優先事項についての情報が、世界の作業療法士にとって利用可能とならなければいけない。逆をいえば、途上国の多くは作業療法士の技能や、その影響力に気づいていないか気づいていないかもしれない。地方や国家レベルでの重要なパートナーシップの欠如といったことに。

教育：地球規模の健康のチャレンジや潜在的な作業療法の役割についての教育は、すべての作業療法教育課程にとってカリキュラムの重要性が高まっている領域である。

研究：研究パートナーシップも、作業療法士が学際的研究チームにおいての研究者となるために重要である。加えて、もっとも効果的な作業療法の影響力を探求するような独立した研究疑問は、地球規模の健康という問題を強調する専門的戦略の必須事項である。

## 結論

技術とコミュニケーション方法の進歩により、多くの適用をしていくのに世界はますます小さくなっている。世界人口の健康と安寧のために、多くの適用が希望となっている。それは、地方のエキスペートや状況と共に熟練した技術を使う複数の国の関与が形成された中で起こっている。健康専門職が直面している現在の状況は、選択され必要とされる作業が実行可能となったり、その作業に結び付いたり、コミュニティやより意味のある人生を創造したりすることを通して、作業療法が大きな役割を果たすということである。ネットワークを形成することは、引き継いだり、新たに打ち立てたりするために、過去の経験と知識を使うということである。こうしたネットワークは、知識、技能、適用、達成の宝庫となる。

## 文献

William H. Foege, Nils Daulaire, Robert E. Black, Clarence E. Pearson. (2005). Gobal health leadership and management. John Wiley & sons Inc. San Francisco CA.

Jeffrey P Koplan, T Christopher Bond, Michael H Merson, K Srinath Reddy, Mario Henry Rodriguez, Nelson K Sewankambo, Judith N Wasserheit. (2009) Towards a common definition of global health. The Lancet, [www.thelancet.com](http://www.thelancet.com), Vol 373 June 6, 2009

はじめに

人の避難とは、戦争、迫害、災害等の状況のために、人々が家から離れるよう強いられることである。

どんな時でも、どの国においても、社会の中で何らかの地位を得ている人々が、避難させられるのである。避難は一時的な作業中断の原因となるかもしれないし、人間としてのニーズを充足したり、人権を行使したり、健康を維持するために必要な作業遂行や参加から、段階的に離されていくかもしれない。

人々は、生き抜くために、避難後の将来に向けて努力するために、力強い作業適応をしっかりと行う。しかし、完全で公平な作業参加を阻む社会的、政治的に作られているバリアによって、避難が延長してしまう。これは、健康な人々を無力化し、コミュニティのまとまりを崩していく。

この文書は、一般社会、専門職、私たちのパートナーたちに対して、作業療法専門職は人の避難に対応する使命をもつということを明確にする。

### WFOT が尊重すること

人の避難は、人としてのニーズ、人権へのアクセス、健康の創造と維持のために必要な作業機会に、直接的、間接的に影響を与える。

人々が人としてのニーズ、人権へのアクセス、健康の創造と維持のための参加ができない場合、この作業的不公正は、人の避難がもたらす問題の一因となりうる。

避難している人を含むすべての人は、人間であるということの徳をもって、人としてのニーズの充足、人権へのアクセス、健康維持のために必要な作業機会をもつ権利がある。この権利は、国、法的状態、社会での目につきやすさや感情、人道主義者の支援、財政傾向といったことで左右されない。

作業療法は、自治の専門職として、現在の社会政治的文脈に対して批判的に取り組む人として、人の避難に対応していく。しかし、作業療法は現在の社会政治的文脈には直接関与しない。

### WFOT のポジション

作業療法士は個人として、避難している人々の作業ニーズと権利を尊重し、守り、その人たちの国で十分に行えることを確実にしていくような、状況特有の方法を発展させ、やり遂げていくために、国の協会と一緒に、避難民やパートナーたちと固く連携していく。

私たちは、価値のある以前の生活役割、作業適応、既存の作業参加による作業的強みを尊重する。私たちは、影響を被っている人々や地域にとっての避難の衝撃を軽減する通常的手段として、避難民、パートナーたち、受け入れ国との相互作用を確実なものにしていく。

私たちは、人の避難の作業的原因を強調したり、意識啓発を行ったり、代弁や主張（アドボケート）をすることによって、作業機会を守る。これは、人としてのニーズや健康的参加のための権利が侵害されるような社会政治的状況が作業関連で起こる所ならどこでも行う。

私たちは、作業機会を創造し、インクルージョンのための特別支援が必要な避難している人々の参加を可能にすることによって、作業ニーズが充足され権利が十分に行使されるようにする。

作業療法専門職は、作業療法を利用できるようにするために努力し、健康のための作業ニーズと権利を尊重し、守り、これが充足されるための種々の仕事に連続して取り組んでいく。これは、学生、実践家、ボランティア、教育者、研究者が、各国で国際的に取り組んでいくことである。

WFOT は作業療法専門職内での能力を築き上げており、避難している人々、パートナーたちと一緒に、仕事において相互に連携を築いている。

### 作業療法にとっての重要性

避難している人々の作業ニーズへの対応には、中核技能を使う。作業療法技能は作業をできるようにするために使われる。具体的には、コミュニティでのアクセス、金銭管理、家庭維持、雇用、子育て、

文化の維持が新しい状況でできるようにすることである。

作業療法技能は、活動分析、作業機会の段階付け、個別のプログラムや設計されたプログラムで仕事をする事、日常作業の参加拡大のために人をみたり、環境を調整するのと同様に環境をみていくホリスティックアプローチで使われる。

避難している人々の作業ニーズに対応することは、避難の社会政治的状況に作業療法が取り組んでいくことを求める。作業療法アプローチは、建設的であると同時に批判的でなければならない。

作業療法技能は、個人の作業遂行をサポートしながら強味を明らかにしていくために使うことができる。また、作業療法技能は個人の状況における作業参加の障壁を明らかにする。

個人へのサービスは、作業参加に対する障壁をシステムとして強調する多職種協働のパートナーシップと代弁（アドボカシー）によって完成する。

### 社会にとっての重要性

避難している人々の作業ニーズに対応することは、対立や葛藤のような問題の元や兆候として、作業的不公正を見えるようにすることである。作業剥奪を生じさせ継続させる背景となっている状況、態度、政策、人間関係と再交渉するために作業機会を使うことは、潜在的な対立を、避難民を受け入れているコミュニティの利益となるたくましい平和に変えていく助けとなりうる。

### チャレンジとストラテジー

作業療法士は、不注意な害の挑戦に直面している。

害の予防戦略：状況、文化、力を考慮しながら敬意を払いながら援助する人間関係を学ぶ。

以前の植民地化や援助の失敗から学ぶことができる。

こうした幅広い対話と現在の作業療法への挑戦

人の避難は、地方レベルで主張されなければならない。国の協会と共に特別に関心をもつグループが、その他の地方機関の取組を補完する。

これは作業療法のこれまでの能力、知識、パートナーたちを拡大することにより達成される。

作業療法士は、他領域や分野で使われている評価や研究も強化しうる。

災害、対立、キャンプ、郊外、区画された居住区といった状況内においては、作業療法にアクセスすることは新しいことである。この実践領域の能力を確立するパイオニアのサポートが必要である。

地球の北側に偏り、避難民についてほとんど触れていない政治的な出版物は問題である。実践や政策を決定する研究のために、国や分野間のパートナーシップが必要である。

作業の問題に関連する政策、公的政治的議題は、ほとんどエビデンスに基づいていない。

作業ニーズや作業権を含むあるいは否定するような政策も、政治的利益のための道具として使われる。

作業療法は、政治の作業関連事項が健康、権利、平和に影響を及ぼす時、これを主張する必要がある。

政治の作業関連事項は、避難民とコミュニティの両方に影響を及ぼす。

### 結論

作業療法士は、以前の状況から現在の状況への架け橋となる価値ある作業に、避難民が参加できるようにすることによって、重要な貢献をすることができる。

この参加は人間のニーズ充足を助け、人権を経験することを助ける。

作業療法士が日常作業、生活役割、コミュニティの一員となることにうまく参加できるようにすれば、人々は非難の負の影響を超えて前進することができる。

さらにこの参加は、コミュニティのインクルージョンと平和を強化する。

作業療法がこの使命を十分に果たすために、私たちは、個人として専門職として能力を発展させていくことを決意する。そうすることで、作業療法実践家、研究者、教育者、学生、専門職団体は、避難の作業的原因と避難から生じる作業の問題の両方に効果的に取り組むことができる。

はじめに

WFOTは国連の世界人権宣言を完全に支持する。この声明書の目的は人の作業と参加に関する人権についてのWFOTのポジションを示すものである。

原則：

- 人は、自分の文化と信念に沿ったやり方で、自分の潜在力を十分に実らせ、満足を経験するような、ある範囲内の作業に参加する権利をもつ。
- 人は、作業に参加するためのサポートを得る権利をもつ。それは、作業との結び付きを通してなされ、家族、地域、社会の一員として含まれることであり、価値をもつことである。
- 人は、自分自身のために選択する権利をもつ。抑圧、権力、強制、つまり安全に、生き延びることや健康を脅かす作業（こうした作業は、人間性を奪ったり、価値を低めたり、不法である）に参加することから自由になる。
- 作業のための権利は、市民活動、教育的、生産的、社会的、創造的、スピリチュアル的（たましいに深くかかわるような）、回復（治療）的作業を含む。作業の人権の表明は、異なる場所では違った形態で行われる。なぜならば、作業は文化的、社会的、地理的状況によって形成されるからである。
- 社会レベルでは、作業の人権は、社会において価値があり意味がある作業に各人が多様な貢献をするということに価値を置くことが土台となる。そして、違いがあるにもかかわらず、作業への参加へのアクセスが平等であることを確実にする。
- 作業権の侵害は、経済的、社会的、物理的排除の形態をとるかもしれない。態度や物理的バリアを通して、あるいは作業を行う上で必要な知識、技能、資源、場所にアクセスすることの制限を通してなされるかもしれない。
- 作業権を脅かす世界的状況には、貧困、病気、社会的差別、避難、天災や人災、軍の闘争が含まれる。さらに、作業権は、文化的、習慣の問題であり、地域環境や組織内の権力や日常実践の問題である。

行動ストラテジー：

作業療法士は作業参加を制限やバリアを経験する人をサポートする知識と技能をもっている。作業療法士は参加をサポートしたり、作業のバリアと不公正という問題への意識を高めたり、すべての人のための作業参加を拡大するために集団や地域や社会と一緒に取り組んだりするための知識を発展させ組織化する役割と責任もある。これを達成することは、作業的に丁度よい社会に到達することである。

作業療法士と作業療法協会にとってのチャレンジは次の通りである。

- 作業的不公正を特定し強調し、個人が経験する不公正の影響を狭める専門職としての責任を受け入れる。
- 社会における作業と参加の広範な視点を、権利として認めるようみんなの意識を啓発する。
- 意味のある作業を通しての参加を促進するために、個人、組織、地域、社会と一緒に協働して取り組むことを学ぶ。
- ユニバーサルデザインを教え発展させ、それによりみんなが真にアクセスできる社会を推進する。
- 責任をもって文化的感受性の問題を強調し、文化的能力を育成する

注：作業の定義

作業療法において、作業は人々が個人として行う日常生活の活動を指し、これは家族の中や地域と共に行われ、時間を占有し、意味と目的を人生に持ち込む。作業は、人々がする必要があり、したいと思いい、することを期待されていることを含む。



## インクルーシブな作業療法教育

Position Statement on Inclusive Occupational Therapy Education 2008

はじめに

障害者の機会平等の基準は、国際連合（国連）の委員会で、48回の会議を経て、1993年12月20日に採択された。この文書は、障害者が完全に自分の生活、コミュニティ、世界に参加することができることを意図するという見方を明確に描き出すものである。平等な参加のための一つの目標は、この文書で説明する「教育」である。障害をもって生活する個人は、教育のすべてのレベルに参加できるべきだと明確に宣言される。特に注目したいのは障害をもつ成人、特に女性である。作業療法における教育プログラムへのアクセスを確実にすることは、達成すべき重要な目標であり、会員国がこの目的を理解し主張していくことを促進するために WFOT が関与することは重要だと言いたい。この声明書は、世界中の会員国の専門職準備におけるインクルーシブな作業療法教育という原則を促進し支持していくために、WFOT の決意を強調するものである。

WFOT のポジション

WFOT は、インクルーシブ教育の権利は最高権であり交渉の余地がないものであると信ずる。作業療法は、一人ひとりが潜在力をもち、生活においての意味を育み、能力を主張していくことができるよう努力する専門職である。それゆえに、作業療法教育プログラムが障害をもつ学生にとってアクセス可能であることは肝要であり、この目標を達成するために採用する方法は他者が見習うモデルとなる。

ポジションの実質的論拠

この文書は、決議 48/96 で表明されている国連のポジションを支持するものとなる。また、実践家、教育者、研究者、代弁者といった複数の役割を通して、すべての市民のための可能化と結び付きを促進する、作業療法専門職としての命令を示すことにもなる。国連は、「インクルーシブな質の高い教育は、すべての学習者の基本的学習ニーズと豊かな生活を充足する質の高い教育という権利に基づいている。特に虚弱な隅に追いやられた集団に焦点を当て、すべての個人の完全な潜在力を発達させることを探るものである。インクルーシブな質の高い教育の最終目標は、すべての差別を終わらせ、社会の凝集性を育てることである。」

(<http://portal.unesco.org/education/en/ev.php-URL>)

社会にとってのポジションの重要性

障害者を作業療法教育プログラムに含むことができるようになれば、社会は多くの機会に直面することになる。障害のある作業療法士を雇用したり、障害者のより完全な統合を隔てる問題への気づきが高まり、完全なるインクルーシブな社会への実践家の決意が強くなる。

作業療法にとってのポジションの重要性

障害をもつ学習者へのオープンさとアクセシビリティがひとたび認識されると、作業療法専門職は、そのことから成長していくだろう。障害を持ちながら生活する個人を、作業療法教育プログラムに受け入れることによって、専門職の哲学が示され、学生たちはモデルとなり、後に続く人たちの例となる。これは真に、作業療法の使命を全うすることになる。

チャレンジ

過去2年間に渡り、世界の作業療法教育プログラムが、どれほど利用可能でインクルーシブかを理解するために調査をした。この調査結果は2008年に発表される。善意志とこの理想へのさまざまな程度の決意があるにもかかわらず、重要なチャレンジがあり、共通に直面する問題があった。教育のアクセ

シビリティに関して政府の方針が国によって非常に多様であった。地域や地方行政によっても違ったし、既存の規則の解釈もさまざまで、組織は法律を支持する方針を策定していた。しかしまだ、リーダーシップの利用可能な資源や優先順位による制約があり、個々の学校やプログラムは、方針の複雑さを解きほぐそうと試みていた。一方、安全で、知識のある、有能な実践家を卒業させるという必要性に対しては十分な決意をもっていった。

#### ストラテジー

作業療法士は、専門職準備を含むインクルーシブな教育の全側面を推進する上でのリーダーとなるべきである。私たちの教育プログラムが障害を持ちながら生活する学習者を歓迎しサポートすることを確実にするために、世界中の作業療法士が意識を高め、決意を持つ明確な必要性がある。鋭敏な意識と理解の促進のために会員を援助するような行動の枠組みが開発されるだろう。WFOTを通してこの枠組みの適用を共有することは、必要な変化を主張し成し遂げるうえで、相互にサポートする力強い場を提供するだろう。より大きなシステムに影響を与える努力ができるよう、会員が使うことのできる、主張に役立つ材料が開発されるだろう。

#### 教育

作業療法実践家の準備のための利用可能でオープンな教育文化の発展と維持を可能にするためには、すべてのレベルでの教育のニーズがある。

#### 結論

21世紀はインクルージョンの世紀である。作業療法は、自分たちの専門職のビジョンを広げていき、方針を打ち立てていくリーダーシップの役割を積極的に担っていく。方針とは、コミュニティでの生活のすべての側面において、障害のある市民すべてのインクルージョンを完全にサポートすることである。この声明書はこの決意を強く主張する。

この文書は、2008年にリュブリャナでのWFOT会議で採択された。

#### 声明書の目的の概説

国際的作業療法研究への参加は、世界作業療法士連盟 (WFOT) の教育と研究 (Education & Research) プログラムのビジョンと方針の一部である。これに従って、この文書では、世界中の作業療法コミュニティの国際協働研究と研究の研修の向上のための枠組みと主な行動を示す。

#### ポジションの表明

国際研究の協働を促進することが、世界における作業療法実践と教育の質を保証するために重要であると WFOT は認識し、国際的協働研究活動を推進するための機会を定め、作り上げていく際のファシリテータの役割を WFOT が担うつもりである。WFOT は、会員や準会員国の間での協働的な国際作業療法研究を発展させる使命を担っている。WFOT は、確立された研究文化の発展、国際的に作業療法実践の基盤となる確固とした進化したエビデンスを提供するための会員国内での実践をサポートすることを目的としている。

#### 作業療法にとってのポジションの重要性

研究は、世界中の作業療法の発達と成長のための重要な要素である。しかし、会員国間における作業療法士による研究活動への関与の度合いは極めて多様である。作業療法研究の障壁には次のものが含まれる。それは、研究の研修機会の不足、財源の不足や利用できる助成金へのアクセスができないこと、プロジェクトをリードしたり、新人研究者の指導者となる経験のある研究者が少ないこと、研究活動に使える時間がないこと、協働する相手の不足である。作業療法研究者間での国際的協働は、知識と熟練技術の世界的蓄積にアクセスするために必要であり、世界および国内の作業療法の主な問題に関わる異なる研究の視点を持ち込むために欠くことができない。経験のある作業療法研究者は、国際的で協働的な作業療法研究活動を発展させ、これに貢献するための熟練技術を共有するよう促される。そして、文化的に適切で特定の状況に合った作業療法研究の研修やプロジェクトを推進する。

発展途上の大学院生や研究方法論を幅広く熟知している教員により人材が増えることを援助するような協働が、研究助成金へのアクセスを成功させ、作業療法特有の研究を行うことを可能にし、学際的な複数の機関の合同研究プロジェクトを可能にするということも、同様に重要である。作業療法研究者は、国際的な知識をもち、文化的に柔軟で、作業療法研究の独立的性質を増加させ、自分の仕事に、これを組み込んでいく必要がある。

#### 社会にとってのポジションの重要性

機会が芽生え、財源に限りがある状況において、WFOT は、国際的協働的作業療法研究のパートナーシップ、活動、プログラムの発展を導く枠組みを採用する必要があるだろう。この枠組みは次の点を強調するものでなければならない。それは、作業療法研究の国際化、協働的国際作業療法研究を組織化し調整するさらなる努力の必要性、利用可能な施設や組織の確実なサポートである。

#### 方法

この研究方法の全体的目的に達するために WFOT は、次のことを行う。

- 作業療法研究におけるエキスパートから構成される国際的顧問グループ (IAG) を設立する。特に WFOT 研究のためのマスタープランの発展に役立つ国際的協働研究に力点を置く
- 協働的国際作業療法研究を奨励し、会員が利用できることを確実にするような資源を発展させ、統合するプログラムを設立する。
- 協働的国際作業療法研究の技能と能力を促進するインターネットの資源の利用を推進する。

- 国内や地域の学会と同様に WFOT 学会と連携し、潜在的な協働的国際作業療法研究プロジェクトのディスカッションと発展のための機会を提供する。
- 新人の作業療法研究者が、経験のある作業療法研究者によりサポートされる場として、メンターシッププログラムを設立する。

## 結論

WFOT は、国際的協働研究が次のようになることを確実にしていく。

- 作業療法研究の全範囲の多様なニーズとアプローチを組み込む
- 新人の研究者間の研究能力を高める援助をする。特に作業療法研究が始まったばかりの会員国でこれを行う。
- 作業療法研究が初期段階にある会員国における研究者と共に、特定の協働の挑戦を行っていく。
- 既存の研究の上に積み重ねていくことで、協働活動は会員国や他の組織により、すでに行われていることと重複する必要がなくなる。
- 作業療法の心臓部となる研究テーマについて、明確で重要な貢献となるようにする。
- 作業療法が貢献する地域と国際レベルにおける研究方針と優先事項に対応する。
- 人や人以外の対象に対して行われる研究のための会員国の倫理ガイドラインに沿う。

#### この文書の概説

この文書の目的は世界の作業療法専門職メンバーに対して、世界市場における対処の際に、行動とプロフェッショナリズムの規則に対する責任について注意喚起することである。

国際的プロフェッショナリズムを取り巻く問題は、教育的経験と知識の転移を提供することで得られる利益のグローバリゼーションと市場開放を通して作業療法士が活用される機会との関連で調べていくとよくわかる。

#### とりうるポジションについての声明

WFOT 会員と会員国は、グローバルな市場における倫理的で透明性の高い交流という原則を守る必要がある。それは、自国で行っていることと同様である。契約されたサービスについて双方の団体が、どの地域であっても、特に国外であっても、サービスを受けたり提供したりするための契約を作成し、理解し、署名することに関連する経験において、国際的違いがあることを認識する必要がある。

#### 作業療法にとってのポジションや関連事項の重要性についての声明

実践の多様な領域の中核におけるグローバルな専門職のコンピテンシー基盤を増大させる努力がなされ、専門職の拡大が見られるときに、継続的専門能力開発の提供における作業療法士の成長のための多くの潜在力がある。世界には国際学会に行くには不釣り合いな給料しか得ていない作業療法士が多くいる。こうした作業療法士は自分の実践を改善したり、健康や社会の領域におけるキャリア向上のための機会を増やすための知識や技能に飢えてもいる。力を合わせる経験を調整していることで、作業療法組織の人は、エキスパートを派遣（実際に会ったりオンラインで）することを準備するかもしれない。エキスパートの「パラシュート派遣」はサービス提供、地方の文脈、習慣、伝統に合わないかもしれない。こうした状況は、両方の団体が関わるものでなく不満足となるだけでなく、生産性が上がらない感じにもなるし、組織されたグループによる外国からの他の作業療法士に対する否定的な意識となる。

#### 社会にとってのポジションの重要性についての声明

グローバルな専門能力開発経験の公的な提供に作業療法士が関与することは、健康や社会の遂行の問題に質的貢献をするという気づきを高める。より洗練された作業療法のプロモーターやこうしたイベントの消費者を増やすことは、最終的には作業療法という専門職に対する社会的受け入れを増やし、作業療法士により提供されるサービスの質を高めることになる。

#### ポジションの実質的論拠

作業療法の全領域における倫理的実践以上の標準はない。作業療法サービスの提供に関連するビジネスモデルは、多くの国で十分理解されていないし、同様に多くの作業療法士は保健医療システムの従事者としてのみ働いており、個人契約の交渉をしたこともない。これには、専門職内でのサービス報酬を決めることも含まれる。何が非営利団体の黒字を生むのか。知識と明確なコミュニケーションは、誤った解釈の最善の防止策である。

#### チャレンジとストラテジー

##### ○ 普及

会員組織は、会員の中の簡略なビジネス技能の資源を促進する必要があり、それはそのリーダーシップにおいて特にそうである。

##### ○ 教育

サービス費用や合意交渉についての教育は、資格取得レベルのプログラムにおける管理や提供シス

テムの一部となるべきである。

○ 研究

会員国と個別の作業療法士は、専門能力開発や消費者満足の研究を含む他のサービスの研究を促進したり提供したりする上で、多様な範囲の効果的なモデルに関する研究を行うことを奨励されなければならない。

結論

世界中の作業療法士は、常に他職種に対して提供される資源を含めて統一性をもちながら、プロフェッショナルとしての行動とサービス提供の要綱内で対処する責任がある。国際的活動に要求されるのは、各団体間における大きな探索と明確な合意である。

#### 声明書の目的の概説

本文書の目的は、作業科学についての WFOT の見解を述べることである。このポジションを説明するために、作業科学の簡潔な概要から始める。

作業科学は 1980 年代後半に、エリザベス・ヤークサ博士のリーダーシップのもと、作業療法士と関連分野からの数名の学者によって、人間作業についての知識を明確にするために設立された。作業科学は、人々が日常生活で行うことや、その作業が、健康や安寧や環境にどのように影響するか、どのように影響されるかについて研究する。

#### WFOT のポジション

WFOT は、作業療法のための作業科学の価値を認め、作業科学の継続的成長と発展をサポートする。そして最終的には、作業科学が世界中でイニシアティブをとることを奨励する。

#### 作業療法にとってのポジションの重要性

作業科学は作業療法にとって重要である。なぜならば

- 人間作業の理解と可能化についての知識と技能は、作業の教育の必須基盤である。
- 作業科学は、作業に焦点を当てた作業療法実践と研究のための理論枠組みを提供する。
- 作業療法の治療手段、最終目標の両方としての作業の豊潤な理解を提供することによって、効果的な作業療法実践を支える。
- 作業科学から生まれた概念は、作業療法士がクライアントの主観的経験、独特な見方、また背景状況を考慮するというを理解するのに役立つ。

#### 社会にとってのポジションの重要性

WFOT は、作業科学が、より広く社会に対して重要であるというポジションをとる。それは、作業科学が次のような多様で広範なトピックを含むからである。

- 作業と発達との関係、生涯を通して作業がどのように変化するかについての説明
- 作業を通して日常生活をどのように組織化するか、作業の個人的意味、社会文化的意味はどのようなものか
- 作業の個人的、社会的機能、作業と状況との関連性、作業との結び付きの経験
- どのように、いつ、どこで、なぜ、人は自分の作業を選択し、結び付くのか
- 作業と、健康、参加、安寧との関係
- 人々の作業機会と選択における経済や環境的問題や政治方針の影響
- 作業的公正を踏みにじる問題と同様に、作業中断と作業剥奪、作業隔離の影響

#### ポジションの実質的論拠

作業科学の成長と発展に対する WFOT のサポートは、作業療法にとって重要である。それは、作業が作業療法の中心的関心領域であり、作業に焦点を当てることが、健康専門職の中で作業療法を独自の存在とする。

#### チャレンジとストラテジー

WFOT が直面するチャレンジは、作業科学が世界各国で多様な発展をしており、発展の程度も異なることである。それは、作業科学者間における学術的能力や興味が多様であることが一番の理由であるが、作業科学が発展している地域においても状況が異なっているということによる。

WFOT 作業科学国際顧問団 (IAG) は、作業科学が作業療法に関連するので作業科学に関連する事柄について WFOT 代表者会議に助言することにより、このチャレンジに対応する。作業科学の国際組織もまた、作業科学の教育や研究結果に関する情報を普及させることによって、作業科学について世界の作業療法士の理解を促進する。

#### 結論

作業は作業療法の基本的関心領域であるので、すべてのレベルにおいて、人間作業に関連する知識の発見を奨励、サポートすることが、この専門職の責任である。

作業科学は、作業、人間の作業的性質、作業・健康・作業を形成する影響要因間の関係の理解を可能にするような思考方法を提供する。

作業療法にとっての作業科学の価値を認め、その国際的發展をサポートすることにより、作業科学により将来さらに明確な理論とエビデンスが生まれ、作業療法教育と実践のための重要な応用が行われるであろう (Polatajko, 2010; Yerxa, 1967)。

#### 文献

Polatajko, H.J. (2010). The study of occupation. In C. Christiansen & E. Townsend (Eds.), *Introduction to Occupation: The art and science of living*. (2nd ed.; Chapter 3, pp.57-79). Upper Saddle River, NJ: Prentice Hall.

Yerxa, E.J. (1967). The American Occupational Therapy Foundation is born. *The American Journal of Occupational Therapy*, 21, 299-300.

この文書は、2011年2月14日に、作業科学 IAG により準備され WFOT に提出された。

2012年3月台湾で開催された WFOT 代表者会議で承認された。



はじめに

この文書は作業療法士資格取得レベルの質を述べたものであり、ここでの質とは作業療法士として実践できることを意味する。世界の資格取得レベルのプログラムは現在、ディプロマ、学士、修士のレベルがある。博士レベルについてもアメリカでは提案されている。ヨーロッパ共同体においては、ディプロマか学士、修士、博士レベルが、教育の3つのサイクルとして考えられている。

### WFOT のポジション

世界作業療法士連盟 (WFOT) は、地域の基準や規則により、作業療法士になるための教育レベルが多様であることを認め、サポートする。さらに WFOT は、異なる資格取得レベルの作業療法士が、それぞれがサービスを提供する専門職としての実践、クライアント、社会に対して異なる強みを持つと認識している。しかし、作業療法士の資格取得レベルは、ディプロマ、学士、修士、博士までの幅があっても、すべての作業療法士は治療のプロセスに個人を結び付ける知識と技能をもっている。より高いレベルで資格を取得した人は、エビデンスに基づいた実践や、専門職に情報をもたらす新たな知識を産出する優れた技能をもっていることだろう。

上述したような資格取得レベルの多様性は、地域による学生の教育的準備や、類似の専門職の教育や、健康専門職への期待や、資格のある健康専門職の給与水準といったことが、特定の地域や状況によって決まるということである。

WFOT は、国によっては単一の資格取得レベルが必須となっている国があることを認識している。他の国では、異なるレベルが存在している。より高い資格取得レベルへと進んでいくことは、進行しつつあり流動的なプロセスとなっており、これが地域の状況において適切なペースで起こるべきであるということも認識している。

### チャレンジとストラテジー

より高い資格取得レベルが提案される際に考慮するのは次の3点である。

1. 他国で資格を得た作業療法士がより高いレベルの国で実践する際にバリアがあるかどうか考えなければならない。
2. より高い質で入学するという事は、入学資格がより高くなり、要求項目の完了が職場に出ることを遅らせるので、原住民族やその他の教育面で不利な状況にある人々の入学への影響を考える必要がある。
3. より高いレベルに移行した時、以前に資格を得た作業療法士に、高い質を得るための道（メカニズム）を用意しなければならない。これは、WFOT の期待するものでもあり、国や地域で取得可能な資格、資格取得後の教育機会が与えられなければならない。

### 作業療法にとっての重要性あるいは論点

作業療法専門職は、歴史的に作業療法士が国境を越えて移動することを歓迎してきた。WFOT は、国の間で作業療法士が行き来することが、異なる資格取得レベルにより複雑化することを受け入れる。これは、作業療法士の国際的移動を可能にするメカニズムの必要性を認めることであり、この動きを維持するための援助をしていくことを歓迎するものである。WFOT は、教育プログラムへの助言をしており、これには、他の国が作業療法士の質について評価できるようにするための、卒業生の能力や学習成果についての明確な表明を含む。そうすれば、国境を越えた動きを促進することになる。

## 社会にとってのポジションの重要性

WFOT は、作業療法教育プログラムが、卒業生が「作業を通しての健康と安寧の促進」において知識と技能をもつよう準備することを、世界で確実にしていく上での重要な役割を担っている。これは、個人や集団と協働して取り組んでいき、「参加を拡大するための環境の側面をかえていくこと」によって行われる (WFOT, 2004)。作業と環境に焦点を当てるという一貫性は、作業が WFOT の教育最低基準に埋め込まれていることをサポートする。

健康専門職に関する改定のための呼びかけに沿う形で、最低基準も、社会とコミュニティの関心事に関連する教育プログラムの必要性を強調している。これは地域の状況において、優先的健康ニーズと優先順位と同様に強調される (UNESCO, 1996, 1998, WHO, 1993)。最低基準も、国際的作業療法コミュニティとの強力な関連を維持し、卒業生の技能が移動可能であることに焦点を当てている (Hocking & Ness, 2002)。これは、地域の健康ニーズにとっての最良なサービスのためには、内容や教育プロセスが異なることを認めるものである。

この文書は、資格取得レベルの能力についての WFOT の文書、人権の WFOT 声明書、多様性と文化のガイドラインと一緒に読むべきである。

## 結論

この声明書は、作業療法士の資格取得レベルの質に関連する現状を述べたものである。WFOT は、複数の資格取得レベルがあることを認めるが、状況が許せば、より高いレベルへと移行することをサポートする。

## 文献

- Hocking, C. & Ness, N.E. (2002). WFOT Minimum Standards for the Education of Occupational Therapists. Perth: World Federation of Occupational Therapists.
- UNESCO. (1996). Policy paper for change and development in higher education.
- UNESCO. (1998). World Declaration on Higher Education for the Twenty-First Century: Vision and Action. [http://www.unesco.org/educprog/wche/declartion\\_eng/htm](http://www.unesco.org/educprog/wche/declartion_eng/htm)
- World Federation of Occupational Therapists. (2004). WFOT Definition of Occupational Therapists. Retrieved April 15, 2008, from [http://wfot.org.au/office\\_files/DEFINITIONS%20-%DRAFT7Aug2005.pdf](http://wfot.org.au/office_files/DEFINITIONS%20-%DRAFT7Aug2005.pdf)
- World Health Organization. (1993). Increasing the relevance of education for health professionals: Report of a WHO Study Group on problem-solving education for the health professions. Geneva: Author.

作業療法は、自律的なヘルスケア専門職である。OT サービスは資格のある作業療法士によってのみ行われる。多くの作業療法士は、世界作業療法士連盟（WFOT）が直接認可した教育プログラムを卒業している。作業療法教育は、自国の作業療法専門職組織の賛成を通して認可されたプログラムでもある。この組織は、WFOT の作業療法士教育の最低基準（2002）に適合しており、卒業生は要求される能力にみあっていることを確実にするという責任を担っている。教育プログラムの認可について責任をもっている外部組織をもつ国もあり、そこでは WFOT と同等かそれ以上の評価プロセスについての国の作業療法教育基準を使っている。

作業療法専門職は、学際的な健康、社会、リハビリテーションチームの対等な構成員であり、患者やクライアントに提供するサービスプログラムを計画する際意思決定に対して、作業遂行という独自の視点で貢献するものである。作業療法士は患者やクライアントを評価するための作業療法プロセスを使い、作業遂行の問題を特定する際には患者やクライアントと協働し、介入（治療）目標と方法の設定、成果の評価に、患者やクライアントがしっかり関わるようにする。作業療法士は、多様な施設や地域に根差したサービスの場面で働く。

どこの国においても作業療法の明確な主張は、国の基本となる作業療法組織の質の高いリーダーシップとなるものである。この国内の集団は多くの形態をとり、専門職集団に関連するその国の法律や基準により決められる。適切な組織のレベル（国、集、県や地区あるいは規則による集団）による専門職は、作業療法専門職が有能で、受け入れ可能な行動や倫理の綱領の範囲に入り、すべての実践において責任があり有能な行動を示すという点で専門職の価値観を具現化するものである。教育や実践の専門職基準について自国の作業療法組織あるいは（行政区レベルのような）同等の権威をもつ組織がない場所では、WFOT のものを適用する。

作業療法専門職は、他専門職を尊重し、同僚としての関係を保ちながら、生涯を通して専門職として学習し、有能で、倫理的で、エビデンスに基づいた実践をする。

この文書は、2006年シドニーでのWFOT会議で、2007年4月に改定された。

はじめに

作業療法は作業を通して健康と安寧を促進することに関心をもつ専門職である。作業療法の基本目標は、ある範囲の環境で日常生活の活動にうまく参加でき、そして地域に参加できるようになることである。作業療法士は、意味のある生活を生きるための能力を拡大するようなことを行うことを、人々ができるようにすることによって、この成果に達する。

災害は、自然であれ人為的であれ、頻繁に世界中で生じる。世界作業療法士連盟（WFOT）は、災害が生活の喪失、財産の破壊、経済的損失の原因になりうることを認めている。災害は人々の健康と安寧、日常の意味のある生活を行う能力に影響を及ぼしうる。地域のレジリエンスや肯定的な状態は、災害対応の重要なテーマであり、意味のある作業によってサポートされる。

世界作業療法士連盟のポジションは、

作業療法士は意味のある日常を行うことや災害により中断されるかもしれない作業を行うことを促進する。

作業療法士は、地方や国家双方のレベルでの災害管理の全段階に関わるべきである。この関わりは、災害発生直後から、リハビリテーションや再構築という長期間に渡る。計画や準備も含まれる。

WFOT は、効果的な災害準備や対応管理には、重要な関係者と協働して長期間に渡る戦略が必要であることも認識している。

社会にとっての重要性

作業の焦点を通して、被災した地域や人々が自分たちの生活や生計を再構築するための継続的努力において、よりよいサービスを受ける。地方のサービス提供者とシステムによる継続がこの成果に貢献する。作業との結び付きが改善することは、よい状態や精神的健康を促進し、より多くの生産性と地域のレジリエンスを実現する。

災害と政策再構築、計画や調整メカニズムに取り組む作業療法士は、対応する努力について適切な熟練技能をもち、それは将来の災害時におけるより一貫した関与と対応の努力のための基盤となる。

地方の健康職種、行政サービス、プロジェクト、国や国際的 NGO プログラムの間のより強いネットワーク作りや調整は、潜在的により統合されホリスティックなものとなり、根拠のある独立独行のサービス枠組みを提供する。

より実践的レベルにおいて、利益というのは次のものが含まれる。よりよい質、個人や家族のための、特に心理社会的な外傷や身体傷害をもつ人たちの継続的ケアやサポートが含まれる。この人たちには、作業や地域に根ざしたリハビリテーションやサポートプログラムが有効である。地域ケア、病院、リハビリテーションセンタープログラムの間でのより強固な紹介やフォローアップのシステムも含まれる。公的及び民間の建物や場所において、障害者や高齢者がより利用しやすいようにすることも含まれる。

作業療法にとっての重要性

被災後の役割は、限定されるわけではないが、次のものが含まれる。

- 参加をよりサポートするための回復（非難民のキャンプなど）、再構築（家屋修復や地域機関など）の全段階で、災害後の環境を利用できることを確実にする。
- 障害者や病人、女性、高齢者、子どもを含めて、避難民キャンプや被災者コミュニティでの日常生活の組織化をする。
- 主流となっている保健医療サービスを利用できるよう働きかける
- 地域サポートや日課を再構築するために、コミュニティのリーダーやその他の人々を励ましたり、

一緒に話し合う。

- 回復を促進するために日常の作業を使う。
- 暮らしを立て直すことを促進する。
- 不安，うつ，自殺したい気持ちに対して，カウンセリングや作業基盤の活動によって精神的健康状態を評価する。
- 「簡単な精神的健康評価」やカウンセリングをできるように，活動や社会的つながりを促進したりできるようにボランティアをトレーニングする。そうすれば，より多くの人々により早期にサービスを提供できる。

#### チャレンジ

作業療法士は，政府や地域のリーダー双方が，作業療法や作業基盤のコミュニティ関与の効果について意識するというチャレンジに直面している。能力向上（Capacity building）は，作業療法ボランティアが災害対応のための準備を確実にするために必要である。

#### ストラテジー

個々の作業療法士にとって，重要な提案事項には地方の地域災害準備に関わったり，弱者集団を含む計画に関わったりすることが含まれる。

各国の協会は，全国的な研修会や能力向上を通して，災害対応により効果的に関わる作業療法士をサポートすることができる。災害によって影響を受けたり，災害対応に直接取り組む作業療法士のために，国の協会はサポートを提供することができる。

WFOT は，タイミングの良い対応を提供し，サポート物資や情報を配布したり，継続的なサポートとネットワーク作りをすることができる。

2014年6月13日

## 災害リスク軽減における作業療法

### Position Statement on Occupational Therapy in Disaster Risk Reduction (DRR) CM2016

#### 概要

作業療法の基本目標は、人々がある範囲の環境において日常生活の活動にうまく参加できるようになることである。作業療法士は、人々の生活がより意味のあるものになるようなことを行う能力を高めることによって、この成果に達する。

自然災害や人災は世界中でより頻繁に起こっている。世界作業療法士連盟は、災害が生活の喪失、財産の破壊、重大な経済的損失、作業機会の減少の原因になると考えている。災害は人の健康、身体能力、健康感に影響を及ぼし、生活の中で親しんだ価値のある活動に結び付く能力の障害を起こす。

世界の作業療法士は、馴染みがある役割や生活の日課や作業を回復したり維持する活動に結び付くことを最優先に考えている。災害リスクを減少する上での重要な関心事は、個人とコミュニティの安寧とレジリエンスの発達であり、虚弱性の減少であり、災害への備えを増大し、当面の災害への警戒のためのシステムを作ることである。

#### 世界作業療法士連盟のポジション

災害リスク減少戦略は、権利を基盤とし平等で住民中心で環境的に維持可能なものでなければならない。インクルージョンを確実にするために、障害を含むことと地域に根ざしたアプローチが採用されるべきであり、年齢、性別、ジェンダー、宗教、文化的アイデンティティ、経済状態による差別をしてはならない。

ケアのための住民中心のアプローチに不可欠な要素は、障害者の権利と視点を尊重することである。障害者は、災害時に安全性やサバイバルについての情報に差別なくアクセスできなければならない。これは教育とアウトリーチによってサポートされなければならない。精神的、身体的リハビリテーションとアクセシビリティは、災害準備、リスク軽減、人道主義的反応といったすべての側面と段階において必須である。物理的、情動的バリアの克服とすべての人のためのアクセシビリティを確実にすることは、ユニバーサルデザインを通して実現され得る。全体として、作業への参加は自然災害に関わるすべての人にとって不可欠な要素なのである。

#### 社会にとっての重要性

突然の災害の影響を軽減する戦略が、リスクを減らし地球規模での持続可能性を高めるために、すべての人の思考の一部になることが必要である。インクルーシブな災害リスク軽減と準備には、市民の声と市民の見方を推進することができる環境の創造が必要である。コミュニティ計画では、災害のもっとも深刻な帰結を避けるために撮るべき行動を協力して考えていくべきである。これには、人々の健康と安全のために必要な健康なエコシステムを維持し足り、身体的多様性を維持するために、環境的まとも（environmental integrity）の原則を含むべきである。

#### 作業療法にとっての重要性

災害の予防、準備、軽減のための最適なアプローチは、ホリスティックで前向きで先見的である。災害リスク軽減の努力は、特定地域における頻発する災害に対してまず焦点が当てられ、その他のことが考えられるが、深刻な潜在的リスクについて焦点が当てられることは少ない。

#### 作業療法士の役割

災害リスク軽減における作業療法士の具体的役割は次のものを含むが、この限りではない。

- インクルージョンについて、収集、測定、経過観察、評価を確実にすることが、災害リスク軽減戦略計画でなくてはならない。

- リスクが特定された地域での準備計画を促進する。
- 障害特有のリスクの軽減と能力評価に貢献する。これにはリスクと資源のマッピングを含む。
- 障害に関する意識啓発と関係者間で共有する決意を打ち立てる。
- 具体的な作業療法教育と能力育成のためのピアトレーニングを提供する。
- 個人、集団、介護者と一緒に災害準備戦略についての教育を提供する。ここには家族の災害プランやキット、撤退計画を含む。
- 災害準備、地域での克服戦略、リスク軽減戦略において、コミュニティの構成員やボランティアをトレーニングする。
- 地域での計画、検査、練習に参加する。
- 作業に焦点を当てることを推進する。
- 地域のサポートや習慣を作り上げるうえで、地域のリーダーやその他の人たちと連携し、その人たちを励ます。

### チャレンジ

作業療法士にとってのチャレンジは、作業療法のポリシーや実践のなかで、災害リスク軽減を理解し概念化することにある。これは、災害リスク軽減とさまざまなレベルで関係者との対応に効果的に取り組んでいくための知識と能力を構築することであり、災害リスク軽減のインクルージョンや、既存の作業療法や健康や地域のプログラムのなかで、レジリエンス構築の考慮点について主張していくことである。

- 地域レベルでは、インクルーシブで人権尊重を促進する戦略のために地域のパートナーと一緒に取り組む。
- 国レベルでは、虚弱な集団と関連がある政策の開発、アクセシビリティ、ユニバーサルデザインのために貢献する。
- 地球レベルでは、最低基準、戦略、プロトコルを推進するための国際的パートナーと一緒に取り組む。

### 戦略

個々の作業療法士においては、地域のコミュニティの災害準備と計画における虚弱な集団のインクルージョンを確実なものにする。

国の組織においては、全国的なワークショップや能力構築を通して、政府の政策開発に貢献することを通して、災害準備とリスク軽減における作業療法士の効果的関与をサポートする。

WFOTにおいては、作業療法の貢献を含む災害リスク軽減戦略の開発を促進するために、国際組織と一緒に積極的に取り組む。

この文書の目的は、終末期ケアにおける作業療法の役割に関する世界作業療法士連盟（WFOT）のポジションを説明することである。作業療法士が関わるさまざまな健康状態、障害、疾病の終末期にある人々すべてが、意味のある作業に結び付くことを通して安寧（will-being）と生活の質についての権利をもっている。死は、人生において避けることのできない自然の結末であり、作業療法士は死にゆく人々やその家族のための望む作業への参加をサポートするという独自の役割をもつ。

#### とるべきポジションについての声明

終末期ケアにおける作業療法サービスの目標は、作業との結び付きを通して最高の生活の質と安寧に達することである（Pozzi, 2010）。人生の終わりに近づく人は、徐々に心身機能低下や身体構造の障害を経験するかもしれないが、生活参加における権利を失うものではない。人生最期のときでさえ、可能な限り十分に、作業役割や価値ある日常生活活動への参加を続けるという望みをもつかもしれない。作業療法士は、望まれた作業の遂行をサポートするために、人と環境と作業のトランザクショナルな関係を理解する。その作業は、死にゆく人とその人が愛する人々の生活の質を高めるものである（Pickens, O'Reilly, & Sharp, 2010）。クライアントの余命の長さに関わらず、作業療法士は作業との結び付きを通して、機能的で、安楽で、安全で、自律的で、尊厳を保ち、社会参加ができるように独自のサービスを提供する。

#### 作業療法にとってのこの問題の重要性についての声明

作業療法は、死にゆく人とその愛する人々のケアに重要な貢献をする。それは、潜在的なバリアを最小化し、強みを最大化するために、課題を分析したり、活動を調整したり、環境を適応させたりするスキルを使うという貢献である。自然に起こったり予測される機能低下のために、死に近づく人は日常生活の価値のある領域への参加を促進するための最適な方法を決めるために、作業遂行の継続的な評価を行うことがよい（Pozzi, 2010）。作業療法士は、人生の終末期に価値のある作業に結び付くことを促進するような機能的遂行を最大化するために、適応、代償、調整、予防、教育のための技能を使い、身体的、情緒的、心理的機能の低下に着目する。作業療法サービスは、クライアントや家族やその文化的文脈にとって意味のある実践となるように設定される。

#### 社会にとってのこのポジションの重要性についての声明

緩和ケアの必要性は、寿命の延伸と非感染性疾患の増加により高まっている。終末期ケアにおける地球上での格差は、多くの国でのケアの限られた財源と同様に政府のサポートという点で、困難な状態にある（Glass 他, 2010）。社会的、文化的、宗教的影響は、地球全体でホスピスや緩和ケアの利用に影響を与えている。継続的な地球規模での政治方針と先進国や開発途上国における優れた緩和ケアのための教育が必要とされる。

作業療法は、ホスピスや緩和ケアでは全体としてあまり利用されていない。しかし、臨床実践、教育的主張、世界的研究が、終末期のクライアントへの作業療法が有益であることを示している（Keesing & Rosenwax, 2011）。臨床での優れた実践により、終末期ケアにおける作業療法の役割の意識の向上とエビデンスを示すことが緊急的に必要である。作業療法士は、終末期ケアチームの中で、社会の作業ニーズについて、その影響力を広げて成長の可能性を示している。

#### ポジションの論拠

終末期のクライアントにとって作業療法サービスは適切ではないという誤解がある（Benthall & Halmes, 2011）。意識と義務感が高まるに従い、世界の作業療法士は、終末期ケアチームの中核となる価値観の一つとして作業参加を含めようと主張するだろう。WFOTは、人生の終末期にある人々の経験



や生活の質に、作業療法が直接影響を与えること、そして終末期ケアにおける作業療法サービスを推進するために主張していく必要があると認識している。

#### チャレンジとストラテジー

WFOTは他の団体と共に、実践、教育、研究における作業療法独自の知識基盤を発展させ、推進し続ける。そうすることで、重病に直面していたり、終末期のケアを受けるクライアントのための介入計画に作業療法が含まれることになるだろう。クライアント中心の実践とクライアントを中心とする考えで進む作業療法の基本アプローチは、終末期ケアにおける私たちの役割を主張する理想的な地位に作業療法を押し上げる。

#### 結論

作業療法士は、人生の最期の時期においても個人の成長と発達が起こり得ること、作業への参加が特に人生最期に近づく人たちにとっても変化を起こし得ることを認識している。作業の専門家として作業療法士は、終末期ケアチームに対して重要な影響を与える。そして、人が機能低下や終末期の疾患に直面している状況において、どのように生活し続けたいと望んでいるかを理解するための価値観を持ち込む。終末期ケアチームにおける作業療法の現在の在り様は楽観的であるが、社会のニーズを充足するために引き続き主張し、サポートする必要がある。

#### References

- Benthall, D. & Holmes, T. (2011). End-of-life care: Facilitating meaningful occupations. *OT Practice, 16* (9), 7-10.
- Glass, A.P., Chen, L., Hwang, E., Ono, Y., & Nahapetyan, L. (2010). A cross-cultural comparison of hospice development in Japan, South Korea, and Taiwan. *Journal of Cross Cultural Gerontology, 25*, 1-19.
- Keesing, S. & Rosenwax, L. (2011). Is occupation missing from occupational therapy in palliative care? *Australian Occupational Therapy Journal, 58*, 329-336.
- Pickens, N. D., O'Reilly, K. R., & Sharp, K. C. (2010). Holding on to normalcy and overshadowed needs: Family caregiving at the end of life. *Canadian Journal of Occupational Therapy, 77*, 234-240.
- Pizzi, M. (2010). Promoting wellness in end-of-life care. In M. Scaffa, M. Reitz, & M. Pizzi (Eds.), *Occupational therapy in the promotion of health and wellness* (pp. 493-511). Philadelphia: F. A. Davis.

## 仕事関連実践における作業療法

### Position Statement on Occupational Therapy in Work-related Practice CM2016

#### この文書の目的についての概要

この文書の目的は、

- 産業保健と安全（occupational health and safety）を含む仕事関連の実践について、世界作業療法士連盟の立場の概要を示す。
- 個人及び集団の健康と安寧に対して仕事をもたらす利益を説明する。
- 仕事関連サービスの提供における作業療法の役割を説明する。

仕事関連の実践という言葉は、職場における怪我の予防やヘルスプロモーションの促進や、怪我や疾病や障害により影響を受けた個人が仕事に戻ったり、意味のある生産的な就労を確実にしたり維持したりするような作業療法サービスの提供を指す。可能な場所で、怪我や病気の後できるだけ早期に、職場で、雇用主や指導者と共に密接なコンサルテーションにおいて、作業療法サービスが提供される。

#### とるべきポジションについての声明

仕事関連の実践における作業療法士の役割は、専門職の初めから発展性のあるものとして、基本原則やモデルを反映している（Kielhofner & Burke, 1983）。雇用主、他の保健医療提供者、保険会社、弁護士を含む分野において、重要な関係者により、作業療法技能が仕事関連の実践で効果的であると認識されている。この技能は、人間の機能と遂行の知識に基づいている。

仕事関連の実践における作業療法サービスは、クライアント、雇用主、保険会社、仕事活動が生じる環境のニーズや目標に基づいて決まる。仕事関連サービスには、次のことが含まれる。

- 生産を可能にしたり拡大したり、怪我や怪我の再発のリスクを経験する労働者、職場、課題の評価
- 生産性を向上させ怪我や怪我の再発を軽減する職場の調整、アクセス、援助機器について、雇用主と保険会社に対するアドバイスの提供
- 共通の仕事上の目標を設定し到達するために関連するすべての人や機関と効果的に協働できるようなケースマネジメントやクライアントのカウンセリング
- 怪我のリスク軽減のために安全な職場を推進するための評価やトレーニングに基づいた職場作り
- 健康的な仕事と職場という文化を育成するためのヘルスプロモーションプログラム
- 以前のように働けなかったり、仕事を変更しなければならない障害があったりするクライアントや、就職、再就職、仕事を継続するクライアントのための技能構築、職業トレーニング、ワークハードニング、関連する職場調整

#### 作業療法にとっての文書の重要性についての声明

この文書は、作業療法の基本的機能は、活動を通しての健康の回復であるという視点（Holmes, 1985）を強調する。作業療法士は仕事関連の実践、産業保健と安全性という分野で専門能力をもつ。その理由は次の通りである。

- 作業は、作業療法理論枠組みの中心である（Yerxa, 1998）。作業療法士は、環境や背景の一部として仕事関連活動に関連する人の身体的、行動的、認知的、社会的、情緒的能力を考慮する。
- 課題分析は、作業療法の中核となる技能であり、仕事のバリアと促進因子を特定することができる。継続的に作業療法士は、仕事と人との適合性を拡大するために必要な介入を特定することができる。
- 作業療法士は、クライアント中心のやり方を取り、特定した成果に向けて関係者と一緒に、仕事環境を適応させていくことができる。これには、心理社会的評価や介入といった分野における知識と技能を必要とする。それは、身体的機能評価、外傷や疾病の知識と、個人や集団の機能に対する外傷や疾病の影響である。

- 作業療法士は、複雑な規則がある環境を理解している。それは国の異なる地域によって特有な環境であり、競合するニーズをもつ多様な関係者や関係機関と効果的に働くうえでも特有な環境である (Adam 他, 2013)。

#### 社会にとってのポジションの重要性についての声明

世界作業療法士連盟は、能力に関わりなく、仕事のような生産的作業に参加するという人々の権利を認め、作業療法士は、参加を可能にする産業保健や安全を含む仕事関連の実践における専門能力をもつと断言する。

このポジションは、職業リハビリテーションの声明をサポートとし、それを補完し、「ディーセントワーク (Decent Work)」を推進する世界労働機関 (International Labour Organisation) の長期間に渡るポジションを支持するものである。

#### このポジションの論拠

個人や集団を特定するというサポートや、最大の望む機能に到達するための取り組みは、すべての作業療法介入の焦点である。怪我のリスク管理と予防、怪我の治療と管理、健康増進活動は、こうした介入をサポートすることができる。

#### チャレンジとストラテジー

- 健康的な職場と健康的な労働者という視点から、作業療法士独自の貢献を普及する。
- 仕事関連の実践における作業療法士の実践の範囲について、雇用主、保健医療提供者、保険会社、弁護士に教育する。
- 仕事関連の実践における作業療法介入の効果についてのエビデンスを提供するための研究が必要である。
- この実践分野で作業療法士が働くために、国の協会は主張したりロビー活動をする必要がある。

#### 結論

すべての人は、生産的仕事に参加する権利がある。仕事関連の旧跡やリハビリテーションサービスの提供は、成人が就職したり、再就職したり、仕事に戻ったり、仕事を継続することを可能にする。作業療法士は、仕事関連のサービスや産業保健サービスを提供するうえでの専門能力を備えている。

#### References

- K. Adam, J. Strong and L. Chipchase (2013). Foundations for work practice: Occupational therapy and physiotherapy entry-level curricula. *International Journal of Therapy and Rehabilitation*, 20(2): 91-100.
- D. Holmes, The Role of the Occupational Therapist- Work Evaluator, *The American Journal of Occupational Therapy*, 39(5) (1985) 308-313.
- G. Kielhofner and J. Burke, The Evolution of Knowledge and Practice in Occupational Therapy: Past Present and Future. In: *Health Through Occupation Theory and Practice in Occupational Therapy*, G. Kielhofner, ed., F.A. Davis Co., Philadelphia, 1983, PP.3-54.
- E.J. Yerxa, E.J. Occupation: The Keystone of a Curriculum for a Self –Defined Profession, *The American Journal of Occupational Therapy*, 52(5) (1998), 365-372.

青少年のための学校での実践における作業療法 Position Statement on  
Occupational Therapy Services in School-Based Practice for Children and Youth, 2016

#### この文書の目的についての概要

この文書が強調するのは、青少年の学校でのインクルーシブ教育のための作業療法の貢献である。世界作業療法士連盟（WFOT）は、インクルーシブ教育は、最高の交渉不要な権利である。さらに作業療法士は、作業的公正の一部として、彼らを選択する作業と学校環境において、すべての生徒が参加可能となるよう協働して取り組むための教育を受け技能を備えている（Tuning Project Group, 2008）（WFOT, 2010）。

WFOTは、世界人権宣言（国際連合, 1948）、児童の権利に関する条約（国際連合, 1990）、障害者の権利に関する条約（国際連合, 2006）、を完全に支持する。障害者の権利に関する条約では、障害者を包容するあらゆる段階の教育制度を確保する（24条1項）、学問的及び社会的な発達を最大にする環境において、完全な包容（インクルージョン）という目標に合致する効果的で個別化された支援措置がとられること（24条, 2項e）と述べられている。

#### とるべきポジションについての声明

作業の価値という作業療法の独自の焦点は、学校での実践に協働的貢献のための機会と、インクルージョンと参加と安寧に向かって取り組むための機会を創り出す。作業療法は、日常生活ですべてのレベルで作業剥奪を経験する人すべてに利用可能でなければならない。

#### 作業療法にとってのポジションや問題の重要性についての声明

作業療法士の役割は、生徒の完全参加と安寧を可能にし、サポートし、推進することであり、これは、強みをサポートし、解決策を探し、学習活動の制限や参加制約を軽減したり除去したりすることによって行われる。これを達成するために作業療法士は、作業を基盤とした実践と、国際生活機能分類（青少年版）（WHO, 2007）の原則を使ったクリニカルリーズニングを具体化する。

学校を基盤とした作業療法は、クライアント中心で、解決に焦点を当て、強みを基盤とし、作業を基盤とし、協働的で状況を基盤とし、教育に関連するものでエビデンスに基づいている。作業療法は、教育システムのすべてのレベル（幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、職業学校、成人教育、生涯教育）をサポートすることができる（Frolek Clark & Chandler, 2013）。

介入のための反応（Response to Intervention）（Ardoin 他, 2005）のような段階的介入モデル、ピラミッドモデル（Fox 他, 2010）、変化のためのパートナー（Partnering for Change）（Missiuna 他, 2012）は、学校システムでどのようにサービスを構造化するかについてのガイドを示した例である。作業療法は、すべてのレベルでサポートの連続性を作ることで貢献する。こうした介入モデルは、サポートするレベルが、必要性に応じたものであることを確実にし、教室内だけでサポートが必要な人から、能力を最大化する個人別に考えられた戦略を必要とする人まで、すべてのクライアントに応用される（Missiuna 他, 2012）。

作業療法には、作業遂行と参加を最大化するために、学校を基盤とした実践において、切れ目のないサポートの連続のすべてのレベルで、集中的なサービスをますます提供していくという重要性がある。

#### 社会にとってのポジションの重要性についての声明

生徒と同様に親と教育者は、学校で生徒の参加と安寧を拡大するために一緒に取り組むことによって利益を得る（Maciver 他, 2011）（Missiuna 他, 2012）。さらなる利益は、市民のための人権のサポート、アクセスと完全参加、社会的・経済的・文化的自由である。また、排除、周縁化、障害者役割、人間の潜在力がレッテルを貼られたり期待されないことを通して制限されていることからの自由である。

作業療法の社会経済的効果についての研究は、作業を基盤としたやり方を使うことが効果と社会的経

済的利益があったことを示している。作業療法の学校での費用は、青少年の高まる生産性によって容易に補填され得るし、それは即時的にも将来的にもそうである (Case-Smith, 2012) (Lammers 他, 2014)。

#### このポジションの論拠

学校での作業療法についての文献は世界中から集まっており、最良の実践のための原則とアプローチが説明されている。この文献の歴史的レビューが示しているのは、学校での作業療法実践が医学モデルから生物心理社会モデルに移行しているということである。作業療法士にとって学校での作業に焦点を当てることは、インクルージョンと参加を成果とする教育システムの方向性と適合している。研究は、作業療法が重要なファシリテータとなるような協働アプローチの効果を強調している (Missiuna 他, 2015)。

研究は、境界域にある子どもが重要な学校関連活動への参加が少ないという結果を示しており、これは彼らの将来に影響を与える可能性がある (ユネスコ, 2009) (ユニセフ, 2006)。Spirit レベルについての WHO の報告では、低い教育成果が健康結果に影響を及ぼすとされ、今のところこの理由は作業療法介入を正当化する (Picket & Wilkinson, 2009)。学校生活における作業遂行と参加を推進する学校での作業療法の効果は、いくつかの研究で示されている (Whalen, 2002)。

#### チャレンジとストラテジー

普及： WFOT は、会員組織すべてが、教育の参加と安寧に対するバリアの軽減と除去のための協働的实践としての学校での作業療法を推進することを奨励する。WFOT は、会員組織が、作業中心のサポートにおいて専門能力を探究するパートナーのための資源となることを奨励する。

教育： WFOT が承認した教育プログラムは、エビデンスから情報を得た実践と配置、最終プロジェクト、学生や新人の作業療法士のための大学院や修士論文のための機会を提供する。

研究：研究は、学校生活における関連する作業上の成果と参加に焦点を当てた妥当なスクリーニングや評価の方法および介入を使ったり、その開発に参加したりすることを通して、最良の学校での実践の提供を確実なものとする。

会員組織：会員組織は、最良の実践を提供するために作業療法士が専門職、親、生徒と協働するよう励ます。学校での作業療法士のための生涯に渡る学習機会を明確にする教育システムを作るようにする。作業療法組織と WFOT の会員は、学士や修士の課程において学校での対象においてエビデンスから情報を得た教育をするよう主張する責任がある。これは、学校での実践におけるすでに卒業している作業療法士の更なる専門性を高める機会を提供することでもある。

#### 結論

WFOT は、作業を基盤とし、教育的に関連するアプローチを承認する。これは、すべての生徒が日常の学校での作業を遂行することをサポートするという国際連合と世界保健機関により主張されているものでもある。作業療法士は、すべてのレベルでのサポートの連続性において学校での実践を提供することにより、インクルーシブな教育をサポートする。作業療法士は、作業の可能化のための必要な協働的サポートを提供し、すべての生徒および特定の教育ニーズのある生徒たちの参加のバリアの軽減や除去を行うことができる。

世界の政策決定者は、すべてのレベルにおける教育をインクルーシブにする助けになるよう教育管轄部門と共に取り組むために、地域に根ざしたリハビリテーションの役割を推進している (世界保健機関, 2010)。それゆえ、教育の規則には、教育サービスと作業療法サービス間の協働的実践についての文言を含まなければならない。

さらに詳細な情報や用語については、次の「学校での実践における作業療法に関する文書 (Supporting Document on Occupational Therapy in School Based Practice)」を参照されたい。

## References and Resources

- Ardoin, S., Witt, J., Connell, J., & Koenig, J. (2005). Application of a three-tiered response to intervention model for instructional planning, decision making, and the identification of children in need of services. *Journal of Psychoeducational Assessment*, 23(4), 362-380.
- Case-Smith, J. (2002). Effectiveness of education-based occupational therapy intervention on handwriting. *American Journal of Occupational Therapy*, January/February 56(1), 17-25.
- Fox, L., Carta, J., Strain, P., Dunlap, G., & Hemmeter, M. L. (2010). Response to intervention and the Pyramid Model. *Infants and Young Children*, 25(1), 3-13.
- Frolek Clark, G., & Chandler, B. (2013). *Best Practices for Occupational Therapy in Schools*. Bethesda: AOTA Press.
- Lammers, M., Scholte, R., & Berden, C. (2014). *Ergotherapie doet er toe. Sociaal Economisch Onderzoek*. Ergotherapie Nederland.
- Maciver, D., Owen, C., Flannery, K., Forsyth, K., Howden, S., Shepherd, C., & Rush, R. (2011). Services for children with developmental co-ordination disorder: the experiences of parents. (37, Red.) *child: care, health & development*, 422-439.
- Missiuna, C., Pollock, N., Levac, D., Campbell, W., Sahagian Whalen, S., Bennett, S., . . . Russell, D. (2015). *Partnering for Change: An Innovative Service with Relevance to the Special Needs Strategy*. Opgehaald van <https://www.canchild.ca/system/tenon/assets/attachments/000/000/955/original/PartneringforChangeServiceModelandSpecialNeedsStrategyMay42015.pdf>
- Missiuna, C., Pollock, N., Levac, D., Campbell, W., Whalen, S., Bennett, S., . . . Russell, D. (2012). Partnering for Change: An innovative education-based occupational therapy service delivery model for children with developmental coordination disorder. *Canadian Journal of Occupational therapy*, 79(1), 41-50.
- Picket, K., & Wilkinson, R. (2009). *The Spirit Level*. United Kingdom: Penguin Group.
- Tuning Project Group. (2008). *Tuning Educational Structures in Europe. Reference points for the design and delivery of degree programmes in occupational therapy*. Bilbao: Universidad de Deusto.
- UNESCO. (2009). *Policy Guidelines on Inclusion in Education*. Opgehaald van <http://unesdoc.unesco.org/images/0017/001778/177849e.pdf>
- UNICEF. (2006). *The State of the World's Children 2006: Excluded and Invisible*. Opgehaald van [http://www.unicef.org/sowc06/pdfs/sowc06\\_fullreport.pdf](http://www.unicef.org/sowc06/pdfs/sowc06_fullreport.pdf)
- United Nations. (1948). *Universal Declaration of Human Rights. 10 december 1948*. Opgehaald van <http://www.un.org/en/universal-declaration-human-rights/>
- United Nations. (1990). *Convention on the rights of the child. 2 september 1990*. Opgehaald van <http://www.ohchr.org/en/professionalinterest/pages/crc.aspx>
- United Nations. (2006). *Convention on the Rights of Persons with Disabilities*.
- Whalen. (2002). How occupational therapy makes a difference in the school system: A summary of the literature. *OT Now, Mai/June 2002*.
- World Federation of Occupational Therapists. (2010). *Statement on occupational therapy*. Opgehaald van <http://www.wfot.org/Portals/O/PDF/STATEMENT%20ON%20OCCUPATIONAL%20THERAPY%20300811.pdf>
- World Health Organization. (2007). *International Classification of Functioning, Disability and Health, Child and Youth version: ICF-CY*. Genève: WHO press.
- World Health Organization. (2010). *Community-based rehabilitation: CBR guidelines*.

はじめに

この文書は作業療法に入る専門職基準あるいは専門職登録を説明するものである。多くの国では、作業療法士を含む多くの健康専門職が、「公的（社会一般の）利益を守り奉仕する」ために、通常は政府の規則を通して決められている基準委員会が、基準についての責任を担っている。この専門職基準委員会は、公的利益において、構成員の専門的実践を統治する権威を代表するものである。重要な機能の一つは、専門職が有能で倫理的に実践することを確実にすることである。専門職基準委員会が、健康専門職が資格を取得する前に完了すべき教育プログラムの承認も行っている国もある。作業療法においてよくみられるのは、「作業療法士」という名称が保護されているということである。それは、基準に見合った人だけを作業療法士というとか、基準委員会で優れているとされる人が自分を作業療法士とすることができるということを意味する。こうした規則には、認可を得た教育プログラムを卒業すること、資格試験に合格すること、あるいは基準委員会や政府により定められたその他の基準を満たすことが含まれるかもしれない。

### WFOT のポジション

世界作業療法士連盟（WFOT）は、技と科学として作業療法を国際的に推進し、世界中での作業療法の発展と活用と実践をサポートし、作業療法が関連する事項と社会に対する貢献を示す。WFOT は、能力不足で非倫理的な作業療法士から社会を守ろうと考えており、これをサポートする。構成員の活動を正式に規制するために政府と協働する法制化された基準委員会（専門職組織の中であっても外であっても）は、社会を保護し、登録された資格のある作業療法士が有能で質の高い仕事をするということに、クライアントが自信をもてるようにする上で必要な役割を担う。

### ポジションの論拠

専門職基準は、基準委員会により定められたもので、健康実践家の登録を提供することで社会を保護し、登録された健康専門職の行動、遂行や実践能力を調査する共通のシステムでもある。専門職基準は、消費者のリスクを最小限にすることでもあり、健康専門職の学生の登録や実践能力評価を行い、公衆を守るということでもある。質の低い遂行や専門職とはいえないような行動がある場合、基準委員会は能力の基準を確立し、実践をモニターし、セラピストの実践を調査し、認可を実行し、実践能力に影響を及ぼすいかなる問題についても、再教育したり指摘したりしりために作業療法士を援助する。

### チャレンジ

1. 「委員会」の構成員には、その国や州での作業療法実践について知識をもつ作業療法士が多く含まれていなければならない。
2. 「委員会」は、国の作業療法専門職組織や、これを策定した政府機関から「一定の距離をおいた」ものでなければならない。
3. 「委員会」には、作業療法士からサービスを受けるクライアントを代表する社会の人を、最低一人は含まなければならない。
4. 作業療法専門職のすべての構成員は、作業療法を実践する人、あるいは作業療法士になるために頑張っている人であり、委員会に登録されなければならない。実践するためには登録の基準を満たさなければならない。
5. 基準モデルを実行するためには適切な財源がなければならない。これは、能力基準や、実行される基準化のプロセスに必要な規則を作成するためである。

## ストラテジー

1. 「委員会」と専門職組織の両者が、作業療法実践が有能で倫理的に行われることを確実にするために協働すべきである。
2. WFOT, 「委員会」, 会員国の専門職組織は、政府に対して専門職を代表し、より大きく主張する。
3. 「作業療法士」という名称は保護されるので、(WFOT が認可したプログラムの卒業生, あるいはその国が認可したプログラムの卒業生, 専門的能力維持など) といった基準に適合した人だけが、その名称を使うことができ、作業療法を実践できる。
4. 作業療法の実践における特定の行動は、守られるかもしれないので、基準にあった人だけが、こうした行動をとることができる。
5. 不適切な実践とは何かが明確に定義されるだろうし、不適切な実践への制裁は明確に定義され、発表される。
6. 「委員会」に登録されたすべての作業療法士は、有能で倫理的な作業療法実践に関連する苦情に関しては、公平な法的代表者となる。

## 作業療法にとっての問題の重要性

専門職基準や専門職登録は、その構造の問題ではなく、作業療法専門職に、大きな権威、コントロール、専門職としての威信を提供する。基準「委員会」は、作業療法を実践するために必要な内容と、専門職を継続して実践するための能力基準を用意するという義務がある。これは、専門職が政府に対して代表して発言したり、アクセスする手段を提供したりするものであり、これが専門職の視点を表明することを可能にする。基準は、作業療法が専門性や高い技術をもっているという自信を、社会にメッセージとして送るものであり、専門職の会員には、自分たちの実践を評価するために使われる基準をおくことで、直接的に専門職の将来をコントロールする機会を与えることになる。

## 社会にとってのポジションの重要性

専門職基準や登録は、消費者のリスクを最小限にし、社会を非倫理的で能力不足の作業療法士の害から守る。「委員会」の権威が政府によって認められたなら、政府に対する説明責任を果たすことになり、それゆえに市民は、作業療法によってなされる潜在的害から守られる。

## 結論

WFOT は、専門職基準と作業療法士登録に賛成する。これは基準委員会が、政府から一定の距離をおき、会員が実践を始める基準を決めるものであり、有能で倫理的な実践の基準を定め、基準に満たない会員に制裁（懲戒処分）を課す。司法権については、制裁機能は別の権威の法的責任となる場合もあるかもしれない。

## 文献

Adams, T. (2009) Understanding professional regulation. Retrieved from:

[www.allacademic.com/meta/p\\_mla\\_apa\\_research\\_citation?2/3/9/2/9/pages239293](http://www.allacademic.com/meta/p_mla_apa_research_citation?2/3/9/2/9/pages239293)

Government of British Columbia, (2009). Legislation and Professional Regulation. Retrieved from:

[www.health.gov.bc.ca/leg/ondex.html#professions](http://www.health.gov.bc.ca/leg/ondex.html#professions)

Harvey, L.(2004). Analytic Quality Glossary, Quality Research International. Retrieved from:

[www.qualityresearchinternational.com/glossay/professionalbody/html](http://www.qualityresearchinternational.com/glossay/professionalbody/html)



#### この文書の目的についての概説

WFOT の作業療法士教育の最低基準と教育課程認証プロセスが更新された (2014)。委員会により合意されたこの更新プロセスでは、学士号あるいは同等のレベルを最低基準に変えた。

なぜこれが適切で望ましいかについて、会員国による広い理解がなされた一方で、ディプロマを持つ人への継続的サポートを提供するための強固な決意もなされた。会員国の大多数は、学士号としているか準備中である。しかし、社会状況においてディプロマから移行することが将来期待できない国もある。

#### 取りうるポジションについての声明

世界作業療法士連盟 (WFOT) は、実践について信用でき準備ができているという目的において「同等の課程を卒業したもの」という記載を付けることで、ディプロマレベルを卒業した人として、WFOT の認証を受けた作業療法教育課程の卒業者をサポートする。適切な作業療法教育課程を卒業していない場合は、作業療法士と名乗ることを許可しない。

#### 作業療法にとってのポジションあるいは問題の重要性についての声明

学士号を認める多くの国々で、過去 10 年間に大勢の人が移動した。加えて、いくつかの会員国は、現在専門職として実践するために必要な資格を修士号としている。受入れ可能で期待される資格レベルは変化が続いているので、作業療法分野ですでに実践している人の本来の価値と熟練技能を認識する必要性が不可欠である。ある国では、ディプロマレベルで卒業した人が大半だということがある。

#### 適切とされる社会にとってのポジションの重要性の声明

以前に卒業した作業療法士は、その専門職に留まり、作業療法の知識と技能の成長と財産となっている。それはその状況において早期から専門職が受け入れられてきて以来続いている。こうしたセラピストが現在知っていることに敬意を表し価値をおくことは必要である。その人たちは彼らができること、全体として社会に対して行ってきたことを知っているからである。社会的影響には、尊重される必要のある健康専門職市場のこの要因への経済投資が含まれる。これには最初の教育課程の創設メンバーの作業療法士も含まれている。この教育課程は現在ではより高い学位が与えられている

#### ポジションの実質的論拠

作業療法士教育の WFOT 最低基準が最近改定され、このポジションが全会員組織により、明確に説明され十分に理解される必要がある。このポジションが示すのは、連盟として一つの目的をもち、達成し協働していくということを認識する意志であり、価値である。

#### チャレンジ

- WFOT は、会員国の中には作業療法教育課程を改定する準備ができていない国があることを認める。
- アクセス可能となるための必要事項について更なる研究が必要である。
- 作業療法実践の格差
- 協会はストラテジーを実行するよう奨励されるべきである。

#### ストラテジー

- 自らの教育レベルを更新したい人のためのアクセスの実現を探る。
- 登録に関する問題に直面している国には移行期間を設けるべきである。

- より高いレベルの作業療法教育者に資格を与えたり，研究機会を促進する（作業療法教育者の学術的資格に関する声明書 2008 を参照）

はじめに

WFOT は、作業療法が国際的に認知された社会の健康と安寧に貢献する専門職であると主張する。

国際的な専門職市場における人材不足は、低収入国から高収入国への大勢の積極的な人材流入という結果をもたらした。長年に渡り、自国に留まる専門職が少ないことは、サービスが少ないとか、存在しないことになるといった脅威を創り出してきた。しかし、こうした移動が生む利益もあり、よりよい生活を追求する人と、熟練技能をもつ職員を求める人の間の困難な緊張状態が形成されている。

この声明書は、人材という面で、専門職の人口が少ない地域から作業療法士を積極的に資源として得て、責任ある募集をサポートすることを目的とする。

### WFOT のポジション

WFOT は、作業療法士が国際的に移動することが、専門職と人々、両方の安寧を発展させ、成長させ、維持するために必須であると主張する。WFOT は、作業療法士が別の国においても、自分たちの専門職の認識や実践に関わる権利があるという信念をサポートする。この権利を行使することを選択した作業療法士は、受け入れ国により決められた移民の基準や必要な制度を知り、それに合うようする必要がる<sup>1</sup>。

多くの国々が、自分たちの国の作業療法士の調達を統治する基準を実行している。これには、専門職の持続性をサポートする目的があるが、他の国で認められたことを適用する個人の権利を侵害するものではない。

国際的に作業療法士を積極的に受け入れる国、組織、共同体、機関は、輩出国の地理的プロフィールを考慮し、理解し、解釈し、輩出国と受け入れ国の間に存在するかもしれない文化的差異に対して前もって対応する必要がある。

別の国で自分の技能を使って実践することを選択した作業療法士は、自分の技能、信念、能力と、受け入れ国により示されている要求を、観察し、尊重し、その基準に合わせる必要がある。作業療法士も国際的募集をする人も、人材不足があり作業療法の発展が継続している国に多くの作業療法士がいることに対する策を講ずる倫理を考える必要がある。

### 声明書の発展のための論拠

資格のある人材の数が多いい国にとっても、少ない国にとっても、作業療法士の需要があることを、研究が示している<sup>2</sup>。別の国で自分の技能を使って実践することを選択した作業療法士の中には、かつてはその国で教育を受けた人もいることを、移住データが明らかにしている<sup>2</sup>。作業療法専門職が発達し続ける地域において、国際的に教育を受けた作業療法士の移住は、専門職の進化を促進するような教育、実践、研究の形成に計り知れないサポートを提供することができる<sup>3</sup>。

保健医療専門職の移住に関連するデータの多くは、看護と医療専門職に基本的には焦点を当てており、その他の保健医療従事者の移住に関しては、範囲はより狭いものとなっている<sup>4,5</sup>。なぜ保健医療専門職が別の国への移住を選択するのかの理由は、個人的、社会的、経済的、政治的、環境的、制度上の力や要因があると引用されている<sup>5,9</sup>。

多くの国、組織、共同体、機関が、自分たちの住民の健康や社会的ケアのニーズに対応するための能力を発達させ維持するために、国際的に他の地域から、作業療法士を含む保健医療従事者を募集することを選択する<sup>6,7,9-11</sup>。専門職人口が少ない地域の保健医療従事者の募集は、多くの政府が倫理的募集基準を実行することにしており、他国への保健医療従事者の移住を保護したり、統治したりすることを目的とした政策がある<sup>8-13</sup>。最近まで、こうした政府の基準や政策を知らせる作業療法専門職の人口統計学的データがほとんどなかった。

WFOT は、作業療法士の世界的な状況を示し、経験のある作業療法士の労働力が不足している国々を特定するための研究を発表した<sup>2)</sup>。このデータは、地域の政策や方針の発達を知らせるもので、特に他の国からの作業療法士の募集を考慮する際に、このデータが使われる。

人材が少ない地域の専門職の成長を保護することと、他の国で自分の技能を使って実践することを認めて、これを行う個人の権利を維持することのバランスをとる必要性を認識しながら、WFOT は、国際的な位置から作業療法士を募集する時に、倫理的、道徳的考慮をする際の助けになるような声明を作成する。

#### 作業療法士と国内協会のチャレンジ

- 1) 作業療法士の人口統計学的分布を広く知らせていくこと。これは、人材が少ないとされている地域から、国際的に教育された作業療法士の人材のための政府の方針を知らせることになる。
- 2) 他の国から、また他の国への作業療法士の移住や移民についての統計情報をもつこと。
- 3) 国内協会は、自国の作業療法士が、その国での作業療法士の定着をサポートするような継続的な教育機会や労働条件をもてるよう交渉、主張すべきである。
- 4) 国際的に教育を受けた作業療法士による健康ケアや社会的ケアのシステムへの特有の貢献のエビデンスをもつこと
- 5) 明確な期日までに、作業療法士の世界の人口統計学的情報に寄与するデータについての WFOT の要請に対応すること

#### WFOT のチャレンジ

- 1) 作業療法専門職の総合的な人口統計学的情報を維持する。
- 2) 会員組織から、より効果的な回答を促進するためのデータ収集方法を洗練する。
- 3) 作業療法関連領域における実践の倫理的募集を定義する。

#### 結論

作業療法は、国際的に認識された専門職であり、住民の安寧に肯定的な影響を与える。国際的に教育を受けた作業療法士は、開発途上国でも先進国でも作業療法サービス提供に貢献する。

作業療法士は、別の国で自分の技能を使って実践することに応募する権利をもつ。

他の国で働くことを選択した作業療法士は、選んだ土地での基準、移民や文化的要請に応えるべきである。

他の国際的地域から作業療法士の人材を得ることを選択した国、組織、共同体、機関は、資源国の人口統計学的状況を考慮し、派遣国と受け入れ国との間に存在するかもしれない文化的違いについて必要なものを認識し、提供すべきである。

作業療法士人口が、その国での住民のニーズを充足しないような地域から作業療法士を調達するときには、WFOT は、責任のある募集が行われるために主張し、サポートする。

#### 文献

1. World Federation of Occupational Therapists. 2007, Requirements for the Employment of Occupational Therapists in Member Countries of the World Federation of Occupational Therapists [online]. The World Federation of Occupational Therapists. Available from [http://www.wfot.org/office\\_files/EmploymentRequirements2007.pdf](http://www.wfot.org/office_files/EmploymentRequirements2007.pdf) [Accessed 24 August 2008]
2. World Federation of Occupational Therapists 2008. Occupational Therapy Human Resources Project. Available from the World Federation of Occupational Therapists
3. World Federation of Occupational Therapists. 2008. Introducing and developing the

occupational therapy profession into countries where the profession does not yet exist or are not yet members of WFOT [DRAFT]. Available from the World Federation of Occupational Therapists URL TBC

4. Moran A. et al. 2005. "There's no place like home" A pilot study of perspectives of international health and social care professionals working in the UK [online]. Available from <http://www.anzhealthpolicy.com/content/pdf/1743-8462-2-25.pdf>. [Accessed 23 August 2008]
5. World Health Organisation. 2006. International migration of health personnel: a challenge for health systems in developing countries [online]. World Health Organisation Available from [http://www.who.int/gb/ebwha/pdf\\_files/WHA59A59\\_18-en.pdf](http://www.who.int/gb/ebwha/pdf_files/WHA59A59_18-en.pdf) [Accessed 25 August 2008]
6. Stewart, J. et al 2007. Migration and Recruitment of Healthcare Professionals: Causes, Consequences and Policy Responses [online]. Germany: Hamburg Institute of International Economic (HWWI). Available from [http://www.focus-migration.de/uploads/tx\\_wilpubdb/PB07\\_Health.pdf](http://www.focus-migration.de/uploads/tx_wilpubdb/PB07_Health.pdf) [Accessed 23 August 2008]
7. Bach, S. 2006. International Mobility of Health Professionals – Brain Drain or Brain Exchange? [online]. World Institute for Development Economics Research of the United Nations University (UNU-WIDER). Available from [http://www.wider.unu.edu/publications/working-papers/research-papers/2006/en\\_GB/rp2006-82/\\_files/78091786133112658/default/rp2006-82.pdf](http://www.wider.unu.edu/publications/working-papers/research-papers/2006/en_GB/rp2006-82/_files/78091786133112658/default/rp2006-82.pdf) [Accessed 23 August 2008]
8. Pang, T. et al. 2002. Brain Drain and Health Professionals [online]. London: British Medical Journal. Available from <http://www.bmj.com/cgi/content/full/324/7336/499> [Accessed 23 August 2008]
9. McIntosh, T. et al. 2007. The Ethical Recruitment of Internationally Educated Health Professionals: Lessons from Abroad and Options for Canada. [online] Canada: Canadian Policy Research Networks Inc. Available from [http://www.cprn.org/documents/46781\\_en.pdf](http://www.cprn.org/documents/46781_en.pdf) [Accessed 25 August 2008]
10. Department of Health. 2004. Code of Practice for the International Recruitment of Healthcare Professionals. London: Department of Health.
11. Scottish Executive 2006. Code of Practice for International Recruitment of Healthcare Professionals in Scotland [online]. Scotland: Scottish Executive. Available from <http://www.bda.org/about/docs/COfPrac%20for%20Int%20Recruit%20of%20Hcare%20Prof.pdf> [Accessed 23 August 2008]
12. The Commonwealth. 2003. Commonwealth Code of Practice for the International Recruitment of Health Workers [online]. London: The Commonwealth. Available from [http://www.thecommonwealth.org/shared\\_asp\\_files/uploadedfiles/%7B7BDD970B-53AE-441D-81DB-1B64C37E992A%7D\\_CommonwealthCodeofPractice.pdf](http://www.thecommonwealth.org/shared_asp_files/uploadedfiles/%7B7BDD970B-53AE-441D-81DB-1B64C37E992A%7D_CommonwealthCodeofPractice.pdf) [Accessed 23 August 2008]
13. The Commonwealth. 2003. Companion Document to the Commonwealth Code of Practice for the International Recruitment of Health Workers [online]. London: The Commonwealth. Available from [http://www.thecommonwealth.org/shared\\_asp\\_files/uploadedfiles/%7B7F307830-1FA4-44A3-9EA5-9CC4055D7D4B%7D\\_CompanionDocument.pdf](http://www.thecommonwealth.org/shared_asp_files/uploadedfiles/%7B7F307830-1FA4-44A3-9EA5-9CC4055D7D4B%7D_CompanionDocument.pdf) [Accessed 23 August 2008]

コンサルテーション準備：2008年8月

批准：2008年9月 改定：2014年

#### 文書の目的と概説

資格取得レベルの実践者に期待される中核技能には含まれない技能をもって卒業する作業療法士が求められることが増えている。この現象の例には、物理療法手段、認知行動の技術、酸素管理、傷のケアが含まれる。この声明書は、基本コンピテンス、有能性、上級実践技能における作業療法実践の視野範囲を明確にすることを意図している。

#### とりうるポジションについての声明

WFOTは、作業療法の専門職の基本概念として、作業、作業遂行、作業との結び付きにコミットすることを強くサポートする。作業療法実践は、人、作業、環境、あるいはこれらの組み合わせを、個人が作業参加拡大のために変化させることができるということに焦点を当てている。WFOTは、こうした技能は資格取得レベルの実践のために必須で中心となると考えられている技能であることを認識しているが、その一方で作業療法の仕事を進めていく際に多くの追加技能があることを認めている。

#### 作業療法にとってのポジションや問題の重要性についての声明

1960年代と1970年代に、作業療法は医学モデルによる枠組みを課せられ、多くの役割を統合してきた。それには身体医学や精神科サービスにおけるリハビリテーションチームに必要とされた多くの課題が含まれていた。こうした役割の要素は、どのサービスが行われたかといった中で観察されるギャップから生じていた。他の専門職の同僚は、作業療法士が提供するのは何なのかを理解するのに苦しんでいたため、自分のチームの作業療法士が何をするのが適切かについての仮説を立てたのも驚くことではない。

20世紀の終わりに、作業の理論と作業療法実践のモデルが、世界中の多くの国で作られ、この革新的な知識が急速に広まって、こうした考えが広く適用された。これは、機能障害や能力障害のレベルから生まれたそれまでの実践モデル、患者の人生や社会への参加についての当事者の認識ではないモデルに対する直接的な挑戦となった。多くの実践家は、新たに生まれたアプローチを使った実践の枠組みよりも、自らが最もよく知っており馴染みのある枠組みに留まることを選んだ。

この状況は多くの実践場面で残っている。相互交流的パートナーシップを構築して評価や介入計画を通して、クライアントをできるようにしていくといった明確さに欠けることよりも、観察しやすい技能の方に価値がおかれている。実践家は物理療法手段や認知行動療法の技能を適用するような技能を発達させることを選ぶという見方が確立するのである。WFOTはこうした技能は評価や治療のもう一つの層としての技能であると理解している。こうした技能は、作業療法実践の中に位置づけられるかもしれないが、拡大された実践の範囲であり、作業療法実践の中核ではない。実践の中核は、人、作業、環境の間の相互交流や相互関係を通して認識されるものであり、作業、作業遂行、作業との結び付きの考えの中にある。

#### 適切とされる社会にとってのポジションの重要性についての声明

潜在的なクライアントに対する作業療法サービスの価値や関連事項を説明することは、全ての作業療法士の自然で簡潔なプロセスでなければならない。人—環境—作業の関連のような考えを説明することは、クライアントとセラピストのパートナーシップの始まりであり、この関係はクライアントが優先事項だとすることに基いて実践を組み立てることの重要性を基盤とする。こうした経験を通して、より多くの社会の人々が作業療法の価値観に馴染むようになり、作業療法がなぜサービスの選択肢となりうるのかを共有したり強調するより多くの例となる。

### ポジションの実質的論拠

WFOTは、作業療法の声明（2010）、日常生活活動の声明書、消費者インターフェースの声明書で述べている通り、能力があり倫理的な作業療法実践を発達させ推進する必要があると明確に主張する。政府組織、非政府組織、より広いコミュニティに対して、作業療法の中核と価値観を推進することは重要である。このポジションをサポートすることによって、会員、会員国、世界中の作業療法士を助けることになる<sup>1</sup>。

### チャレンジとストラテジー

- この声明書を会員組織に回す。
- 組織の会員に対して声明書を回す代表者を出すよう求める。
- 会員国の学会で、この実践の期待をディベートするセッションを設ける。
- 教育課程に対して公式声明を送り、代表者を通して、教育カリキュラムの中でこの声明書を考慮するよう求める。
- 声明書の調査、批判など、各国協会、教育プログラム、その他の重要な人々から意見を求め、考慮する。

### 結論

この声明書の目的は、専門職が前進するためのストラテジーを策定する際に、会員国組織の基準点を提供することである。教育、実践、役割の出現、研究、プロジェクト、政策における基準点である。この基準点は、作業療法実践の中核を基盤としており、それは人が自らの環境内で優先する作業に参加することができるようになるということである。

#### この文書の目的の概説

この声明書は、世界の作業療法士による安全で有能な実践を確実にすることに WFOT が焦点を当てるといふことと、実践の上級及び専門レベルを示すものである。

この声明書は、WFOT の作業療法士教育最低基準を反映させたものである。資格取得レベルのコンピテンシー、コンピテンシーとコンピテンシーの維持、実践の視野と範囲という WFOT の声明書にも基づいている。

この声明は、WFOT の会員協会におけるスペシャリストのコンピテンシーの 2 つの調査から作成されたもので、多くの会員協会が上級レベルのコンピテンシーを認めるための構造を持っているが、ほとんどの協会や国は、上級レベルのコンピテンシーを認めていないし、そのシステムをもっていないということも考慮している。

#### とりうるポジションについての声明

WFOT は、自国における作業療法の上級あるいは専門化されたコンピテンシーを認める会員国は、こうした実践のレベルを承認する場所での構造をもたなければならない。こうした構造には、上級あるいはスペシャリストの地位を得るための必要事項と、承認プロセスを含むべきであり、更新のためのプロセスも含むべきである。

WFOT は次のような構造を提案し、5 項目すべての要素に合致すべきであると助言する。

1. 候補者は、作業療法士として認知されていなければならない、各国で必要な資格をもっており、国及び地方の作業療法協会の会員でなければならない。
2. 最低 3 年間の経験があり、その内の半分以上は専門領域あるいは上級の実践を行った経験をもつ。
3. 修士レベルの資格がある：
  - 作業療法修士号
  - 一般的な修士号、教育コースからの作業療法の内容についての認められた時間やポイント
4. 指導者としての教育、指導されながらの実践、他者への指導経験を含む構造化された臨床指導プログラムがある。
5. プロフェッショナルプロフィールと納得できるコンピテンシー（知識、技能、態度）
  - 専門的あるいは科学的記事の執筆
  - 学会での発表
  - 職場での改革やイニシアティブ；専門能力開発（professional development）

各会員協会のための構造の要素は、地方の状況で構築されなければならない。会員国は別の協会からシステムを適用するが、特定の要素はその地方の状況に沿うよう適応させなければならない。その国の作業療法サービスの必要性を考慮する。

#### 作業療法にとってのポジションの重要性についての声明

この声明書は、資格取得レベルのコンピテンシーを超えたスペシャリストのコンピテンシーについてのガイドラインを求める声に対応するものである。

作業療法の上級レベルのコンピテンシーは、作業療法士が作業療法の専門領域において実践するための技能、知識、態度をもっていると考えられることを必要とする。

作業療法士のための声明書は、資格取得レベルのコンピテンシーを超えて専門性について情報をもたらす。専門的トレーニングレベルの後に異なる実践場面におけるコンピテンシーのための必要事項を定義することとなる。グローバル化する作業療法世界において、WFOT 会員国における上級レベルと専門レベルを認め、水準を決めるといふポジションをとる。



社会にとっての重要性についての声明

WFOTは、作業療法士が変化する環境や、臨床実践や公衆衛生における新たな要求に、有能に対応することを推奨する。

作業療法士は、入院期間の短縮、在宅や地域での健康サービスといったヘルスケアの傾向に対応する上で、より関連深く焦点を当てた実践を行うという要求にこたえている。コミュニティにおいて、公衆衛生や予防サービスは、作業療法サービスがよりインクルーシブな社会を発展させ、そのための変化を起こす主体となるよう求めつつある。

スペシャリストと上級レベルのコンピテンシーをもつ作業療法士がいることは、サービスの質を高め維持可能性を広げる。有効で継続的な人中心のサービスは、関連深い専門的で上級レベルの作業療法が提供されることを通して、無駄を最小限にすることを確実にする。

チャレンジとストラテジー

重要なチャレンジは、そのコンピテンシーを充足する会員協会の能力である。特に修士号とすることや更なる教育が必要となることはチャレンジである。これを克服するストラテジーには、オンラインで学位を取得するコースや他の国の修士課程と連携することが含まれる。

会員国のそのほかのチャレンジは、応募者や候補者を承認するために必要なプロセスや手続きである。ここでのストラテジーには、WFOT 地方グループといった各会員協会の中で、熟練技能を使ってプロセスを進めるために一緒にグループとなって取り組むことが含まれる。

会員協会で強調される必要があるかもしれない更なるチャレンジには、上級や専門レベルの制度化や基準化にともなう法的必要要件がある。

結論

上級化および専門化された実践は世界変革において重要である。作業療法実践が適合し持続可能であることを確実にするための上級化と専門化のためのコンピテンシーをもつことが重要である。

作業療法士が実践のコンピテンシーを維持することを確実にするために、WFOTは作業療法の上級化と専門化のコンピテンシーが実践のレベルで承認されることによって構造化されなければならないということをどの会員協会もが認識するというポジションをとる。

文献

1. WFOT (2002). Minimum Standards for the Education of Occupational Therapists. WFOT [www.wfot.org](http://www.wfot.org)
2. Specialist Application, Danish Association of Occupational Therapists [www.etf.dk](http://www.etf.dk)
3. The Norwegian Association of Occupational Therapists: Ergoterapeutenes Spesialistordning (2014) <http://www.ergoterapeutene.org>
4. Canadian Association CAOT [www.caot.ca](http://www.caot.ca)
5. Occupational Therapy Competencies AOTI Project Office 2008

NB All references to be checked

### 目的と定義についての概説

この文書の目的は、作業療法サービスの提供における遠隔ヘルス (telehealth) の利用について、世界作業療法士連盟 (WFOT) のポジションを述べることである。

遠隔ヘルスは、提供者とクライアントが異なる物理的場所にいるときに、健康関連サービスの提供のために情報とコミュニケーションテクノロジー (ICT) を活用することである。このリモートサービス提供モデルを説明するために様々な用語が使われている。遠隔ヘルスという用語が、健康担当課や政策決定者により使われる言葉として最適であり、作業療法実践の全体 (健康増進、ハビリテーション、リハビリテーションなど) を説明するのに適している。このサービス提供モデルを説明するために使われるその他の用語には、遠隔作業療法 (tele-occupational therapy)、遠隔リハビリテーション、遠隔療法、遠隔ケア、遠隔医療、遠隔実践などがある。WFOT は、作業療法を「クライアント中心の健康専門職で作業を通して検討と安寧を促進することに関心をもつ」(p.3) と定義している<sup>1</sup>。この定義のおかげで、作業療法士はどこで実践するかといった状況に関わらず健康を促進する。

「遠隔ヘルス」という用語は、セラピストとクライアントの同時的 (リアルタイム) 交流を意味する (ビデオ会議、リモートモニタリング、アプリやゲーム技術を使ったバーチャル交流など)。また、同時ではない (蓄積転送など) データ通信 (ビデオ、写真、電子メールなど) も意味する。遠隔ヘルスは、人と人との交流と遠隔ヘルス双方を使ったハイブリッドなサービス提供モデルの一部として選択される場合もあるかもしれない。遠隔ヘルスは、管轄区域、施設、作業療法実践を監督する専門的基準やポリシーにより受け入れられるものとして、評価、介入、モニタリング、スーパービジョン、コンサルテーション (遠方にいるセラピスト、クライアント、地方のヘルスケア提供者の間での) のために使われる。

### ポジションについての声明

作業療法を世界的に発展させるという WFOT の使命は、地方の文化、資源、作業のために概念化されたサービスにアクセスするという前提条件をもつ。WFOT は次のことを主張する。

遠隔ヘルス経由で提供された作業療法サービスは、管轄区域、施設、作業療法実践を監督する専門的基準やポリシーにより受け入れられる対人で提供されたケアと同等の標準に見合うものでなければならない。

作業療法サービスは理想的には、地方でトレーニングされ文化的に有能な作業療法士によって提供される。国際連合の障害者の権利条約<sup>2</sup>が主張するように、「ハビリテーション及びリハビリテーションについての包括的なサービス及びプログラムを企画し、強化し、及び拡張」し、こうしたサービスやプログラムは「障害者自身が属する地域社会 (農村を含む) の可能な限り近くにおいて利用可能」なものとする (第 26 条—ハビリテーション及びリハビリテーション)。遠隔ヘルスは、離れたスペシャリストから地方のヘルスケア提供者へ、コンサルテーションと関係のモニタリングを通して、知識と技能の移転により、クライアントの地域内でサービスへのアクセスを改善し、「ハビリテーション及びリハビリテーションについての包括的なサービスの強化と拡張」をするかもしれない。

遠隔ヘルスは、対人サービスが不可能であったり、実際的でなかったり最適でないとき、遠隔ヘルスがクライアントと提供者双方が受け入れているとき、作業療法サービスのための適切な配給モデルとなる。遠隔ヘルスは対人でクライアントに作業療法サービスを提供する中のハイブリッドモデルの一部となったり、作業療法サービス中のいくつかが遠方で提供されたりすることもある。

遠隔ヘルスでの作業療法サービスは、サービスを受ける個人、集団、文化にとって適切で、作業やクライアントの関心事に沿っていなければならない。

遠隔ヘルスのコンピテンシーやガイドラインは、作業療法士、教育者、会員協会、その他社会の関連する人々の協働によって定義されるべきである。

## 社会にとってのポジションの重要性についての声明

遠隔ヘルスは、情報とコミュニケーションテクノロジーを通して作業療法士とクライアントをつなげるので、人と人が会うことが不可能であったり実際的でなかったりするときに、サービスを受けられない人々のためのサービスアクセスを改善する。遠隔ヘルスは、地方の提供者の教育のギャップを埋めるとし、作業療法士の不足に対して貢献する。

世界保健機関と世界銀行が共同で発表した障害に関する世界のワールドレポートでは、リハビリテーションサービスの提供のための遠隔ヘルスの有効性が記され、「従来の介入と比較したときに、同等あるいはそれ以上の臨床的成果を導く」(p.119)<sup>3</sup>と述べられている。この報告書に引用されている研究は、遠隔ヘルスは対人で提供されるリハビリテーションサービスと同等の成果を報告している。遠隔ヘルスのテクノロジーには、ヘルスケア提供者のトレーニングやサポートを促進することも含まれ、「国家間の専門的熟練技能の共有が、災害後のような厳しい時と同様にできる」(p.119)ということもある。

## チャレンジとストラテジー

WFOTは、作業療法によって使われる遠隔ヘルスは、WFOTの倫理綱領に沿い、管轄区域、施設、作業療法実践を監督する専門的基準やポリシーに沿うべきであると主張する。重要な考慮点には次のものが含まれる。

- 免許と登録 –セラピストは、専門職の免許や登録の必要事項に従う。WFOTの文書、他国での作業療法士として働くこと<sup>5</sup>は、WFOT会員協会の大多数における登録、実践、会員となるための必要事項の概要を示している。
- 地方の作業療法士との協働 –遠隔ヘルス提供者は、一貫性があり関連深く継続可能なサービスという利点のために、地方の作業療法提供者や組織や教育機関を育てたり、一緒に協働したりする機会を探ることが奨励される。
- クライアントの選択 –セラピストは個々のクライアントの状況（クライアントの診断名や機能障害、提供される作業療法介入の性質など）に基づいて遠隔ヘルスの適切性を判断するためにクリニカルリーディングを使うべきである。遠隔ヘルスは、クライアント特有のニーズが示された際に対人サービスを避けるために使われるべきではないし、差別的な理由でセラピストがクライアントに接することを避けるために使われるものではない。(WFOTの文書、作業療法におけるクライアント中心<sup>6</sup>を参照)
- 治療の同意 –セラピストはクライアントに提供される作業療法サービスの性質、リスク、効果、代替治療法の選択肢、プライバシーや安全性保護の限界、テクノロジーとの関連での個人情報保護についての情報を提供する。
- 専門的信用の保障 –作業療法士は専門的信用保証を維持するための管轄区域、施設、専門職としての必要事項を守るべきである。作業療法士は、サービス提供する地理的領域が専門職としての信用報償の範囲内であることを確認すべきである。
- 秘密保持 –遠隔ヘルスの利用者は、管轄区域、施設、作業療法実践を監督する専門的基準やポリシーに沿って、クライアントのデータを同時的及び蓄積して扱うときに個人情報を保護する。
- 個人的及び文化的特質 –セラピストはWFOTの文書、多様性と文化のガイドライン<sup>7</sup>、多様性と文化の声明書<sup>8</sup>に記されている原則に従うべきである。
- 提供者のコンピテンシーとケアの標準 –セラピストは専門職コンピテンシーを維持し、遠隔ヘルスのテクノロジーを使うコンピテンシーを獲得し、クライアントの安全を確保し、実践の倫理原則を守らなければならない。
- 報酬、支払者のガイドライン –セラピストは遠隔ヘルスで提供されるサービスを正確に行い、報酬を得るための必要事項を順守しなければならない。
- 正真正銘の作業療法実践 –WFOTはクライアント中心、作業中心の実践を認め、それがこの専門職の広さを描き出す。

## 結論

遠隔ヘルスは作業療法のための適切なサービスモデルとなりうる。そして作業療法サービスへのアクセスを改善するかもしれない。

WFOT 会議で 2014 年に承認された。

## 文献

1. World Federation of Occupational Therapists. (2013). Definitions of occupational therapy from member organisations (revised 2013 October). Retrieved from <http://www.wfot.org/ResourceCentre.aspx>
2. United Nations. (2006). Convention on the rights of persons with disabilities. Retrieved from <http://www.un.org/disabilities/convention/conventionfull.shtml> 外務省：障害者の権利に関する条約 [http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken/index\\_shogaisha.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken/index_shogaisha.html)
3. World Health Organization & World Bank. (2011). World report on disability. Retrieved from [http://whqlibdoc.who.int/publications/2011/9789240685215\\_emg.pdf](http://whqlibdoc.who.int/publications/2011/9789240685215_emg.pdf)
4. World Federation of Occupational Therapists. (2005). Code of Ethics (revised 2005). Retrieved from <http://www.wfot.org/ResourceCentre.aspx>
5. World Federation of Occupational Therapists. (2013). Working as an occupational therapist in another country. Retrieved from <http://www.wfot.org/ResourceCentre.aspx>
6. World Federation of Occupational Therapists. (2010). Client-centredness in occupational therapy. Retrieved from <http://www.wfot.org/ResourceCentre.aspx>
7. World Federation of Occupational Therapists. (2009). Guiding principle on diversity and culture. Retrieved from <http://www.wfot.org/ResourceCentre.tabid/132/did/306/Default.aspx>
8. World Federation of Occupational Therapists. (2010). Diversity and Culture. Retrieved from <http://www.wfot.org/ResourceCentre.aspx>

#### 本文書の目的の概要

世界作業療法士連盟（WFOT）は、社会への参加とインクルージョンのための事前準備として、ユニバーサルデザインの原則を尊重しサポートする。ユニバーサルデザインは、人間の多様性、社会のインクルージョンと平等性のための計画や設計への戦略的アプローチの一つである。これは、「すべての人々により利用可能な製品や環境のデザインであり、非常に大きな可能性がある。特殊化されたデザインや適応の必要がないということである」<sup>i</sup>

#### とるべきポジションについての声明

WFOT は、社会において差別の障壁を軽減する手段としてユニバーサルデザインを促進することを、全会員組織に対して奨励する。そしてこれは、ユニバーサルデザインにおける専門技術を求めるパートナーにとっての資源となる。

WFOT が主張するのは、原則としてのユニバーサルデザインが、環境、製品、交通機関、テクノロジーを構成する基盤となることであり、サービスや態度も同様である。

#### 社会にとってのポジションの重要性についての声明

ユニバーサルデザインに対する世界的な関心の増大は、次の要因を基盤としている。

- 住民全体にとっての利益
- 寿命の延伸
- 生活機能障害をもちながら生活する若年人口の増大
- 人権と機会平等の重要性
- 障害、健康、環境間の関係
- ユニバーサルデザインを必要としたり、これをサポートする差別禁止法をもつ国々の増加

#### 作業療法にとってのポジションと論点の重要性についての声明

作業療法士は、次の理由によりユニバーサルデザインの専門家としての知識と技能をもっている。

- 作業療法士は、インクルージョンと参加を最大化するための人と作業遂行と社会、文化、物理的環境の相互作用についてのエキスパートである。
- 作業療法士は作業的公正を促進する。
- 作業療法士は、参加とインクルージョンの障壁を軽減するためのパートナーとなる機関や人々と一緒に協働する。

i The principles of universal design Version 2.0 - 4/1/97. Bettye Rose Connell, Mike Jones, Ron Mace, Jim Mueller, AbirMullick, Elaine Ostrlff, Jon Sanford, Ed Steinfeld, Molly Story, and Gregg Vanderheiden.

Major funding provided by: The National Institute on Disability and Rehabilitation Research, U.S.Department of Education. Copyright 1997 NC State University, The Center for Universal Design

## 目的と定義の概要

この文書の目的は、継続的専門能力開発（訳者注：専門職としての生涯学習）とネットワーキングのためのソーシャルメディアの利用について、世界作業療法士連盟の立場を表明することである。

この声明は、作業療法の役割の一つとしてソーシャルメディアをもつ会員国と作業療法士すべてのためのものである。この声明において、ソーシャルメディアを定義し、専門職としての役割においてソーシャルメディアを使うメリットを明らかにする。リスクを軽減し専門職のオンラインでの評判を高めるために、ソーシャルメディアに安全に関わるための原則の概要を示す。

「ソーシャルメディア」という用語はテクノロジーの特定の組み合わせとその適用を指す(英国政府, 2014)。ソーシャルメディアは、情報や意見共有を促進し、ディスカッションを推進するオンラインのテクノロジーであり、オンラインネットワークを構築するために使うことができる。テクノロジーには、多様なメディアがあり、テキスト、画像、ビデオ、音楽が含まれ、次のものがある。

- **Facebook**: 現在最強のソーシャルネットワークのウェブサイトで、4億人が活発に利用している。
- **Twitter**: ソーシャルネットワークとマイクロブログサービスで、利用者をツイートとして知られるメッセージを送ったり読んだりする。
- **WFOT 会員限定ディスカッションフォーラム**: 専門職の意見交換とディベートのためのもの
- **YouTube**: 動画共有ウェブサイトで、利用者は動画をアップロードしたり、共有したり、視聴したりする。
- **LinkedIn**: ビジネス用のソーシャルネットワークサイトで、主に専門職のネットワークのために使われる。
- **Flickr**: 画像のウェブサイトでオンラインコミュニティ
- **Slideshare**: パワーポイントのプレゼンテーションや文書を共有するウェブサイトで、スライドショーをアップロードしたり、見たり、コメントしたり共有したりできる。
- **Blogs**: 知識や技能を共有するためのもの
- **Pinterest**: 視覚的資源を共有するためのもの

## とるべきポジションについての声明

作業療法を世界的に発展させるという WFOT のミッションは、地方の文化、資源、作業に対して概念化されたサービスへのアクセスを前提とする。

ソーシャルメディアを使う作業療法士は、作業療法の実践を統治する管轄区、機関、専門職の規則や方針に従うべきである。

専門的利用のためのソーシャルメディアガイドラインは、作業療法士、教育者、会員協会、その他の社会的関係機関のコンサルテーションにおいて規定され、最良の実践によって情報を与えられるべきである。

## 作業療法にとっての問題の重要についての声明

作業療法士は、情報収集のために、エビデンスに基づいた実践のために、知識の発展の助けとしてインターネットを使う (Bodell 他, 2009, Hamilton, 2015)。オンラインネットワークの力を利用することによってこれを行う。そしてもっとも役立つネットワーク（「実際の」世界あるいはオンライン）は、多様であり、密度が低い (Dobrow & Higgins, 2005)。多様なネットワークは、広い範囲で、戦略的に選ばれた多様な専門職、視点、個性を反映する。ネットワークの密度は、ネットワークが広がる領域に関連し、密度が高いのは、たとえば一つの病院で密接にコンタクトをとるような場合であり、密度が低いネットワークは、より広く広がっていて、たとえば全国的あるいは国際的に広くカバーされている場合である。

ほとんどの作業療法士は、すぐには実際の世界の多様性にアクセスすることはなく、密度の低いネットワークである。時間と資源という点ではかなりの投資が必要であり、結果として実行可能な選択肢として、専門職のネットワークの主なオンラインテクノロジーを使う（Kashani 他，2010）。

オンラインソーシャルメディアは、多様で密度の低い無料のネットワークで、時間と努力と言う点で低コストのものとなる。Bodell と Hook（2011）は、ネットワーク作りが専門職の役割とサポートティブな戦略に必要な要素だと述べた。彼らは、オンライン環境の力が、伝統的なネットワークづくり戦略に伴う時間や費用やエネルギーといった煩わしい負担なしに、世界的な専門的ネットワークを発展させることができると提言している。

ソーシャルメディアを使うことはリスクがないわけではない。特に秘密保持、専門職主義、個人の安全性に関してはリスクがある。Boon と Sinclair（2009）は、オンラインソーシャルメディアを無邪気に使うことを警告し、学習への取り組みや深さに関連する潜在的問題や、証明や信頼に関連する問題について述べている。この声明書は、こうしたリスクのいくつかの改善を探るものである。

### チャレンジとストラテジー

WFOT が断言するのは、ソーシャルメディアを使う作業療法士が、WFOT の実践のスタンダードと倫理綱領に記載されているプロフェッショナリズムの標準に適合するべきであり、作業療法実践を統治する管轄区域、機関、専門職の規則と方針に従うべきだということである。

ソーシャルメディアを使うためのよい実践の原則（上述した関連するすべての規則と方針の遵守に加えて）：サポートとなるガイダンス文書における追加事項

1. 個人的役割と専門的役割を常に分けることはできないと認識する。
2. オンラインで示した画像は、あなたとあなたの専門両方を反映する：倫理的で前向きであれ。
3. オンラインでの交流するとき、自分自身のために話しているのか、雇用主のために話しているのか、専門職のために話しているのかを明確にする。
4. 思慮深く、丁寧に、尊敬の念をもって他者に対応する。
5. あなたの専門性、洞察、経験を、形成し、つながり、共有する。
6. 倫理的方法でオンラインを使い、他者も同じように行うことをサポートすることにより、ソーシャルメディア利用を推進する。
7. 倫理的にソーシャルメディアを使うために他者をどのようにサポートするかを学習する。

### 結論

注意深くリスクを考慮する必要があるが、このテクノロジーを警戒し過ぎることは、作業療法士や会員組織の能力を限定してしまうかもしれない。この領域での技能発達を望む人にとって、現在はトレーニングの機会が限られているが、多くの最良の実践の綱領やガイドライン（この文書もその一つ）がある。この原則は、既存のガイドライン構築を探る者であり、作業療法士や組織の管理者のために、ソーシャルメディア利用を促進するための包括的アプローチを提供する。

## References

- Bodell, S., & Hook, A. (2011). Using Facebook for professional networking: A modern-day essential. *British Journal of Occupational Therapy*, 74, 588 - 590. doi: 10.4276/030802211X13232584581533
- Bodell, S., Hook, A., Penman, M., & Wade, W. (2009). Creating a learning community in today's world: How blogging can facilitate continuing professional development and international learning. *British Journal of Occupational Therapy*, 72, 279–281. doi: 10.1177/030802260907200611
- Boon, S., & Sinclair, C. (2009). A world I don't inhabit: Disquiet and identity in Second Life and Facebook. *Educational Media International*, 46, 99-110. doi: 10.1080/09523980902933565
- United Kingdom Government (2014). Social media guidance for civil servants: October 2014 [Government Guidance]. Retrieved from <https://www.gov.uk/government/publications/social-media-guidance-for-civil-servants>
- Dobrow, S. R., & Higgins, M. C. (2005). Developmental networks and professional identity: A longitudinal study. *Career Development International*, 10, 567 – 583. doi: 10.1108/13620430510620629
- Hamilton, A. L. (2015). *The Importance of Digital Literacy in the Knowledge Era* (Doctoral thesis, Deakin University, Melbourne, Australia). Retrieved from <http://dro.deakin.edu.au/view/DU:30079203>.
- Kashani, R., Burwash, S., & Hamilton, A. (2010). To be or not to be on Facebook: this is the question. *Occupational Therapy Now*, 12(6), 19-22

さらなるガイダンスについては、ソーシャルメディア利用に関する声明書（Position statement on the Use of Social Media）を参照のこと。（訳者注：ここでは省略）



#### 本文書の目的の概要

本文書の目的は、世界作業療法士連盟（WFOT）が、作業療法の実践領域との関連で、どのように職業リハビリテーションを位置づけるかを表明することである。

この声明書において、職業リハビリテーションとは、人々が仕事に、入職、再入職、復職、就業継続すること<sup>1</sup>を援助する多様なサービス提供を広く指す。

世界中の職業リハビリテーションは、程度はさまざまであり、形態も多様であるが利用可能である。公的機関が行う場合もあれば、民間機関が行う場合もあり、非政府組織の中で行われることもある。職歴のある人もない人も対象となっており、多様な専門的あるいは非専門的分野における雇用されている人や雇用主のために行われている。

#### ポジションについての声明

作業療法士は、産業界や保健医療の人材から、職業リハビリテーションサービスの提供において、重要な役割を担っていると認識されている。

職業リハビリテーションにおいて提供されるサービスは、クライアント、雇用主、保険機関、その仕事が行われる環境のニーズと目標によって決まる。サービスには次の内容が含まれる。

- クライアントや職場の職業前、職業評価のような評価
- 技能構築、職業訓練、ワークハードニング、関連する職場調整といった介入プログラム。これは、以前に働いたことがない、あるいは障害をもったことで仕事のニーズが変わったクライアントのためのものであり、クライアントの入職、再入職、復職、仕事の継続のために行われる
- クライアントや他の人たちへのケースマネジメントやカウンセリング
- 怪我のリスクを最小化し、健康的な仕事文化や健康的な職場を育成する物理的、社会的仕事環境を創造するためのヘルスプロモーションプログラム

WFOTは、仕事<sup>2</sup>を含む生産的作業に参加する全能力についての人々の権利を確かなものにする。そして、作業療法士が、個人が仕事に参加できるようになるための職業リハビリテーションにおいて専門技能をもつことを確実にする。

#### 作業療法にとってのポジションの重要性についての声明

すべての個人のための仕事関連の事柄を考慮することは、作業療法士の専門性と倫理的責任である。これには、短期的あるいは長期的に障害をもつ人々、不利な状況におかれていたり、社会の隅に追いやられている集団の個人を含む<sup>3</sup>。

作業的公正や、すべての人のための社会における生産的役割の機会に向かって主張することは、職業的作業療法プロセスの一貫である。

#### 社会にとってのポジションの重要性についての声明

WFOTは、世界保健機関（WHO）の健康の社会的決定要因についての声明の勧告をサポートする。それは「日常生活の状態の改善、つまり人々が生まれ、育ち、暮らし、働き、年老いる場を改善する」<sup>4</sup>ということである。

WFOTは、障害者のよい仕事の促進における国際労働機関（ILO）をサポートする。これは、公平な機会、公平な扱い、障害の主流化（メインストリーミング）、地域との関わり、という原則に基づいている<sup>5</sup>。

## ポジションの実質的論拠

作業療法士が職業リハビリテーションにおいて専門技能をもつのは次の理由による。

- 仕事を含むすべてのタイプの作業療法の遂行と結び付きを促進することが基本的関心領域である
- 遂行技能、作業との結び付きに影響を与える背景や環境、クライアントの精神的、身体的健康、心身機能と身体構造に焦点を当てる
- 生活機能と仕事の性質（活動分析など）の評価感の互換性
- クライアントや雇用主のニーズに対する全体的アプローチ

## チャレンジとストラテジー

WFOT は、次のことを含む職業リハビリテーションの中でのチャレンジを認識している。

- 職業リハビリテーションという用語の理解の多様性
- 職業リハビリテーションへのアクセスと優先順位の設定
- 地球規模での、地理的な労働市場の変化
- WFOT は、上記のチャレンジを沿って次のストラテジーを推進する。
- 生産的な仕事に参加するためのすべての人々の権利を主張する
- 一般の人々、雇用主、保険機関に対して、入職、再入職、復職、就業継続を可能にする効果的な評価、介入、予防プログラムを促進する。
- 効果的な職業リハビリテーションサービスの提供の個人的、地域的、社会的、経済的価値を示すさらなる研究を行い発表する。

## 結論

すべての人は、社会に完全に結び付く権利を有している。これには生産的な仕事への参加が含まれる。職業リハビリテーションサービスの提供は、個人の入職、再入職、復職、就業継続を可能にすることができる。作業療法士は職業リハビリテーションサービス提供において専門技能をもつ

この文書は、2012年台湾でのWFOT会議で承認された。

## 文献

1. Waddell, G., Burton, A. K., & Kendall, N. A. S. (2008). Vocational Rehabilitation: What Works, for Whom, and When? London: TSO.
2. WFOT (2006) Position Statement on Human Rights
3. WFOT (2005). Code of Ethics.
4. WHO (2008). Social determinants of health.
5. ILO Vocational Rehabilitation and Employment (disabled Persons) Convention (No. 159) and Recommendation (No. 168): United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities / International Labour Office – Geneva: ILO. 2008

## 作業療法に関する声明 Statement on Occupational Therapy 2010

作業療法はクライアント中心の保健専門職で、作業を通して健康と安寧を促進する。作業療法の基本目標は、人々が日常生活の活動に参加できるようになることである。作業療法士は人々や地域と一緒に取り組むことにより、人々がしたい、する必要がある、することを期待されている作業に結び付く能力を高める、あるいは作業との結び付きをよりよくサポートするよう作業や環境を調整することで、この成果に達する。

作業療法士は医学、社会行動学、心理学、心理社会学、作業科学における幅広い教育を受けている。これは、個人的あるいは集団や地域の人々と協働して取り組んでいくための態度、技能、知識を作業療法士がもっているということである。作業療法士は健康状態に起因する心身機能障害がある人、参加制約がある人、社会的、文化的に少数集団に属するために社会から排除されている人を含む、すべての人と共に取り組んでいくことができる。

作業療法士は、個人の身体的、情緒的、認知的能力や、作業の性質や、物理的、社会的、文化的、態度や法的環境により、参加がサポートされることもあるし、制約されることもあるという信念をもつ。そのために作業療法実践は、個別の人、作業、環境の側面、また作業参加を拡大するためのこれらの組み合わせを、個人が自分で変化させることができるという点に焦点を当てる。

作業療法は、公的機関、民間機関、ボランティアなど広い範囲で実践される。たとえば、個人の住宅、学校、職場、保健センター、建物などの配慮、高齢者住宅、リハビリテーションセンター、病院、司法関連領域などで実践される。クライアントは作業療法プロセスに積極的に関わる。成果はクライアントが決め、多様であり、参加や作業参加から得られる満足、あるいは作業遂行上の向上において測定される。多くの国で OT は健康専門職として法制化されており、大学レベルの特別な教育が必要とされている。

## 作業療法の定義 Definition of Occupational Therapy 2012 (作業療法の声明の最初の段落と同様)

Occupational therapy is a client-centred health profession concerned with promoting health and well being through occupation. The primary goal of occupational therapy is to enable people to participate in the activities of everyday life. Occupational therapists achieve this outcome by working with people and communities to enhance their ability to engage in the occupations they want to, need to, or are expected to do, or by modifying the occupation or the environment to better support their occupational engagement. (WFOT 2012)

## 作業の定義 Definition of Occupation (日本語訳は 21 ページ、人権の声明書の文末)

In occupational therapy, occupations refer to the everyday activities that people do as individuals, in families and with communities to occupy time and bring meaning and purpose to life. Occupations include things people need to, want to and are expected to do.

この綱領は、いかなる専門的状況においても作業療法士の適切な行動の一般的な事柄について述べたものである。各会員協会はそのニーズに合った詳細な倫理綱領をもつということが理解されている。

#### 個人としての資質

作業療法士はその職務のあらゆる側面において、高潔 (integrity)、信頼 (reliability)、率直 (open-mindedness)、忠実 (loyalty) を行動で示す。

#### 作業療法サービスを受ける人々に対する責任

作業療法士は、作業療法を受けるすべての人々に敬意をもって接し、個々人のおかれた状況を尊重する。作業療法士は、人種、肌の色、機能障害、能力障害、国籍、年齢、性差、性的選択、宗教、政治的信条、社会的地位によって、作業療法を受ける人々を差別してはならない。

作業療法サービスを提供する際には、作業療法を受ける人々の価値観、意向、および参加能力を必ず考慮する。

作業療法を受ける人々の個人情報、その守秘が保証され、いかなる詳細情報も本人の承諾があった場合にのみ伝達される。

#### 協働的实践における専門職の行為規範

作業療法士は職種間の協働の必要性を認識し、他職種がそれぞれ独自の貢献をしていることを尊重する。職種間の協働における作業療法士の貢献は、人々の健康と幸福な生活に影響を与える作業遂行に基盤をおくことでなされる。

#### 専門的知識の発展

作業療法士は、生涯学習を通して専門職の発展に参画し、習得した知識と技能を専門職としての仕事に応用する際には、入手可能な最良のエビデンスに基づいて行う。

研究に関与する際は、作業療法士は関連する倫理的事項を尊重する。

#### 推進と発展

作業療法士は、作業療法専門職全体の向上と発展に尽力する。作業療法士はまた、地方レベル、国レベル、国際レベルで、一般市民・他職種団体・行政機関に対して、作業療法を倫理的に推進・振興するよう努力する。